

平成25年度

香芝市の教育に関する事務の
管理及び執行の点検及び評価報告書

(平成24年度対象)

平成25年8月

香芝市教育委員会

目 次

はじめに	1
1. 施策の点検・評価	
(1) 平成25年度点検・評価事業一覧	2
(2) 各点検評価シート	4
2. 知見者の意見	52
3. 資料	
(1) 教育委員会の概要	56
(2) 教育委員会の活動状況	57
(3) 会議の開催状況	58
(4) 平成25年度 教育部重点目標	59
(5) 学校教育の指導方針	62
(6) 児童・生徒・園児数一覧	67

はじめに

『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』により、教育委員会では、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに市民に公表することが義務づけられています。

この報告書は、同法の規定に基づき、本市教育委員会が実施した平成24年度事業のうち、主な事業を対象に点検・評価を行った結果をまとめたものです。

香芝市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(昭和31年法律第162号)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1. 施策の点検・評価

(1)平成25年度点検・評価事業一覧

政策名	施策名	主な取組事項	主な事業	所属
次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち	家庭・地域の教育力の向上	家庭教育の充実	家庭教育学級育成事業	生涯学習課 P6
			合同学習会事業	
		地域教育力の向上	学校支援地域本部事業	学校教育課 P8
			放課後子ども教室事業	
	就学前教育の充実	幼児教育の充実	幼稚園教育力向上事業	学校教育課 P10
			未就園児支援事業	
			幼稚園運営事業	総務課 P12
			幼稚園教育振興事業	
		幼稚園教育環境の整備	幼稚園施設耐震化事業	総務課 P14
			幼稚園施設維持管理事業	
	学校教育の充実	児童生徒の学力・体力の向上	国際理解教育推進事業	学校教育課 P16
			体力向上推進事業	
			小・中学校運営事業	総務課 P18
			小・中学校教育振興事業	
		安心して学べる教育環境の整備	児童生徒包括的支援事業	学校教育課 P20
			特別支援教育推進事業	
			学校給食事業	
			教育施設耐震化事業	総務課 P22
		小・中学校施設維持管理事業		
		信頼される学校づくり	教職員資質向上事業	学校教育課 P24
	開かれた学校づくり推進事業			
	子ども・若者のフォローアップ(青少年の健全育成)	子どもの居場所づくり	子どもフェスティバル事業	生涯学習課 P26
			青少年野外活動センター管理運営事業	
			成人式事業	
広報啓発の強化		「少年の主張」事業	青少年センター P28	
		広報啓発活動事業		
子ども見守り活動の推進		市内特別巡視事業	青少年センター P30	
体験学習の機会の提供		ふるさと探訪事業	青少年センター P32	
		ファミリー雪体験ツアー事業		
適応指導の充実	教育相談事業	青少年センター P34		

政策名	施策名	主な取組事項	主な事業	所属
次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち	「だれでも・どこでも・いつでも」学び・楽しめる環境の充実	生涯学習機会の充実	市民公開講座事業	生涯学習課 P36
			市美術展覧会事業	
			学級生大会事業	
		スポーツ団体の支援	スポーツ少年団支援事業	生涯学習課 P38
			各種団体支援事業	
		中央公民館活動の活性化	生涯学習機会提供事業	中央公民館 P40
			登録団体育成事業	
		図書館機能の充実	図書館資料提供事業	市民図書館 P42
			子どもの読書活動推進事業	
		スポーツ施設維持・運営事業	社会体育施設運営事業	生涯学習課 P44
社会体育施設維持整備事業				
みんなで創る豊かで将来性のあるまち	歴史文化財の保存と継承・展開	博物館機能の充実	学習環境充実事業	二上山博物館 P46
			学校教育連携協力事業	
		尼寺廃寺跡史跡整備の推進	尼寺廃寺跡史跡整備推進事業	生涯学習課 P48
		文化財の保護・管理	文化財保護啓発事業	生涯学習課 P50
			文化財保護審議会事務局事業	

(2) 各点検評価シート

点検評価シートの説明

主な取組み事項名称

担当課 (担当施設名称)

第4次総合計画での位置付け

総合計画の 位置付け	政策名 : <input type="text"/> 施策名 : <input type="text"/> 主な取組み事項: <input type="text"/>
目的	

主な取組み事項の経緯

--

・主な事業

1. 主な事業名称		<ul style="list-style-type: none"> ・法での義務づけ ・各種計画での位置付け ・市長公約 等 	
〈目的〉	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズ ・対象とする人数 ・緊急性 等 	行政関与の 必 要	主な事業の決算額(千円未満 切り捨て) ・予算が無い場合は『-』 ・総合計画見直しにより新規 の事業の場合は『-』
〈取組みの状況〉	<ul style="list-style-type: none"> ・事業効果の高さ ・本来の目的以外の効果はあるか ・類似・重複の有無 等 	有 効 性	B
〈成果〉	<ul style="list-style-type: none"> ・実施による効率性 ・経済的 ・物件費の縮減の有無 等 	効率・経済性	
〈評価〉	評価基準 A ・達成している。(100%) ・現時点で予定通りの進捗状況である。 B ・ほぼ達成している。(80%) ・現時点でほぼ予定通りの進捗状況である。 改善の余地が残されている。 C ・概ね達成している。(60%) ・現時点で、少し予定よりも遅れている状況である。 達成には努力が必要である。 D ・達成できていない。(50%以下) ・現時点で、予定を達成できていない。 達成には、相当の努力が必要である。	23年度決算(千円)	-
		24年度決算(千円)	-
2.		行政関与の妥当性	総合評価
〈目的〉		必 要 性	
〈取組みの状況〉		有 効 性	
〈成果〉		効率・経済性	
〈評価〉		23年度決算(千円)	
		24年度決算(千円)	

事業名	活動名	指標	実績				将来目標 (平成27年度)	備考
			H22年度	H23年度	H24年度	H25年度		
主な事業名称	活動名	決算 (予算)額 (千円)						
	活動名							
主な事業名称								

事業内容がわかりやすい指標の設定

千円未満切り捨て

総計の中間年の27年度の目標値
該当数値がない事業については『-』の表示

指標や実績値についての説明事項を記入

事業内容がわかる写真等

主な取組み事項の『課題』を、記載する。

《課題》

主な取組み事項の『今後の取組み』を、記載する。

《今後の取組み》

家庭教育の充実

生涯学習課

総合計画の 位置付け	政策名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名 : 家庭・地域の教育力の向上 主な取組み事項 : 家庭教育の充実
目的	学級生が学習に取り組める環境を整備し、生涯学習に取り組むことを通じて豊かで生きがいのある地域社会の実現を目指すとともに、地域・家庭・学校・行政等の連携のもと、親子関係のあり方や基本的な生活習慣、思いやりの心の育成など、地域コミュニティづくりを目指す。

主な取組み事項の経緯
学級の実情にあった学習内容に取り組むことにより、地域教育力の向上につながっている。また、合同学習会については、学習の質の向上と学級生同士の情報交換や交流を図ってきた。

・主 な 事 業

1. 家庭教育学級育成事業				
〈目的〉 家庭の教育力向上のため保護者が家庭教育に関する学習や交流を行い、その成果を家庭や地域に還元することを目的とする。 〈取組みの状況〉 各家庭教育学級が、家庭や学校、地域と行政との連携をとりながら家庭・地域の教育力の向上を図った。 〈成果〉 平成24年度においては、乳幼児を持つ親の学級参加が増加傾向にあり、学習意欲の向上が見られた。 〈評価〉 家庭教育学級では、学級生との学校・行政との連携が図られ、学習に対する意欲が感じられる。	行政関与の妥当性	A	総合評価 B	
	必要性	A		
	有効性	B		
	効率・経済性	B		
		23年度決算(千円)		764
		24年度決算(千円)		806
2. 合同学習会事業				
〈目的〉 学級生が、社会教育学級において学ぶ意義を認識し、各学級及び学級生同士の連帯感を高めること。 〈取組みの状況〉 社会教育学級生が、日頃の学習活動に生かせるような学習内容でテーマ等を設定している。 〈成果〉 テーマ等を明確に設定することにより、参加者が増加し、学習意欲や学級生の交流が図れた。 〈評価〉 自己啓発と地域のコミュニケーションが活発になってきていて、参加者の学習意欲が見て取れる。	行政関与の妥当性	B	総合評価 B	
	必要性	B		
	有効性	B		
	効率・経済性	B		
		23年度決算(千円)		78
		24年度決算(千円)		93

・活動指標

事業名	活動名	指標	H22年度 実績	H23年度 実績	H24年度 実績	H25年度 予定	将来目標 (平成27年度)	備考
家庭教育学級 育成事業	学級運営	学級数	12	12	12	12	15	
		学級生数	265	251	252	260	280	
		決算(予算) 額(千円)	937	764	806	916	1,100	学級活動の充実
合同学習事業	合同学習会	開催数	3	3	2	2	3	
		参加者数	277	312	276	252	450	
		決算(予算) 額(千円)	50	78	93	136	170	子を持つ親の参加が多いため、託児が必須



【家庭教育学級活動】



【合同学習会】

《課題》

家庭教育学級生は、乳幼児を持つ親が多いため、活動・事業に伴う託児の必要性がある。また、働く保護者のための学習方法や開催日を工夫するとともに、テーマ等を的確に捉え、参加人数及び学級生の増加につながるような学習内容が必要である。

《今後の取組み》

学校・地域・家庭・行政と連携しながら、豊かな心を育てるために、テーマ等の学習内容の検討を行い、体験活動や世代間交流など、広く地域に還元できるような、学習活動の充実を図っていきたい。

地域教育力の向上

学校教育課

総合計画の 位置付け	<p>政 策 名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち</p> <p>施 策 名 : 家庭・地域の教育力の向上</p> <p>主な取組み事項: 地域教育力の向上</p>
目 的	<p>青少年による犯罪、いじめ、不登校など、児童生徒をとりまく様々な問題が発生し、家庭や地域の教育力の低下が叫ばれている。子どもの教育を学校だけにまかせるのではなく、家庭・地域総がかりで子どもの教育を推進し、地域全体の教育力を向上させる必要がある。</p>

<p>主な取組み事項の経緯</p>
<p>各小中学校では、地域の人材が学校での教育活動に参加し、子どもたちの育成に協力してきた。こういった活動を組織化したものが、平成 20 年度から行っている「学校支援地域本部事業」である。事業化することにより、各校とも地域・家庭と連携して教育を行うことの重要性を再認識し、地域への情報発信力が高まった。</p>

・主 な 事 業

1. 学校支援地域本部事業				
<p>〈目的〉 子どもたちが、多様な経験を持つ地域の大人とふれ合う機会を増やし、登下校の安全確保、学習活動、部活動の充実、学校の環境整備等を図る。</p> <p>〈取組みの状況〉 全ての中学校区に地域教育協議会を設置し、学校と地域・保護者が子どもたちの教育課題を共有している。また、全ての学校では、見守り活動や図書活動などの様々なボランティア活動が行われている。</p> <p>〈成果〉 平成 23 年度から「学校・地域連携事業」という新たな枠組みで補助事業がスタートし、2 年目となる。それぞれの学校において、学校と地域・保護者が連携して活動することができた。</p> <p>〈評価〉 学校は、保護者や地域から支援・協力を受けることにより、活性化され、教師や子どもにとっても有益な活動である。しかし、今後更なる活動のためには、一層の情報発信が求められる。学校をベースにしたコミュニティづくりにもつながる事業であり、学校側の組織づくりが必要である。</p>	行政関与の妥当性	B	総合評価 B	
	必 要 性	B		
	有 効 性	A		
	効率・経済性	B		
	23年度決算(千円)			2, 253
	24年度決算(千円)			2, 373

2. 放課後子ども教室事業			
<p>〈目的〉 近年の少子化による兄弟姉妹の減少、地域のつながりの希薄化、子どもの安全を脅かす事件や事故の増加などが要因となり、放課後に異年齢の子ども同士、友だち同士で過ごす機会が少なくなっている中で、放課後に子どもたちの安全で健やかな居場所を提供する。</p> <p>〈取組みの状況〉 平成19年度から、放課後の学校施設を利用し、地域のボランティア人材との交流や学習支援を行っている。現在5校で実施している。</p> <p>〈成果〉 放課後子ども教室は、5校で実施し、1年生から6年生までの児童103名が登録した。活動には地域のボランティアも延べ102名が参加した。</p> <p>〈評価〉 学校という安全な場所を放課後の居場所として提供し、地域の人材を活用し学習や交流の機会を提供でき、前年度よりのリピーターも増加しているが、活動場所、指導員数により募集人員に制限があり希望者のニーズに応えられない面がある。</p>	行政関与の妥当性	B	総合評価
	必要性	A	
	有効性	B	B
	効率・経済性	B	
	23年度決算(千円)	1,360	
	24年度決算(千円)	1,432	

・活動指標

事業名	活動名	指標	H22年度実績	H23年度実績	H24年度実績	H25年度予定	将来目標(平成27年度)	備考
域本部事業 学校支援 地域本部 事業	学校支援 地域本部 事業	ボランティア登録数	133	152	161	170	500	
		決算(予算)額(千円)	2,753	2,253	2,373	2,458	3,000	
放課後子ども 教室事業	放課後子ども 教室 事業	実施教室数	4	5	5	6	10	
		決算(予算)額(千円)	940	1,360	1,432	1,650	3,000	

《課題》

2つの事業ともに、学校と、保護者や地域との連携がまだ不十分な面もあり、更なる連携・協力が必要であると考えられる。

特に、放課後子ども教室事業については、行政による直接運営から、各教室の現状に即した活動と地域組織との交流を行うため、地域スタッフによる自主運営へとシフトチェンジを行っているが、活動内容に温度差が見られるため、スタッフのスキルアップを図るとともに、地域組織（老人会・子ども会・その他地域グループ等）との協力体制を確立する必要がある。

《今後の取組み》

平成25年度からは「学校・地域パートナーシップ事業」として、学校と保護者・地域とが「パートナーシップ」の関係で、課題解決に向けた取組みを、各小中学校で行う。

幼児教育の充実

学校教育課

総合計画の 位置付け	政 策 名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施 策 名 : 就学前教育の充実 主な取組み事項: 幼児教育の充実
目 的	小学校への就学前の幼児に対して、小学校就学を見据え、健康な心と体を育むとともに、自立心や人と関わる力を養うため、幼稚園教育の充実を図ることが必要である。

主な取組み事項の経緯
公立幼稚園として地域に根ざした幼児教育に徹し、他の幼稚園や保育所、就学する小学校、また中学校としっかりとした連携を図るとともに、それぞれの幼稚園で工夫した、特色ある園づくりを進めてきた。

・主 な 事 業

1. 幼稚園教育力向上事業			
〈目的〉 人格形成の基礎となる幼児期の教育を担当する機関としての重要性を認識し、市立幼稚園としての特色を生かし魅力ある教育を進める。 〈取組みの状況〉 英語を母国語とする外国人講師がすべての幼稚園を訪問し、歌やゲームなどの体験的な活動を行うことにより、園児が、将来、学習する英語教育に幼児期より触れる機会が持てた。 〈成果〉 園児が、外国人や英語を通して、異なる文化や言語に直接触れることにより、学ぶことに対し、興味を持つことができた。また、コミュニケーション能力の素地となる、自分の思いを他者に伝えることの大切さを学んでいる。 〈評価〉 園児にとっては、外国人や英語とは全く初めての出会い、体験であり、大きな成果が得られたと思われる。小学校でいろいろな教科を学習するが、学ぶことの楽しさを感じることでできる有効な取組みである。	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必 要 性	B	B
	有 効 性	B	
	効率・経済性	B	
	23年度決算(千円)		
24年度決算(千円)			262
2. 未就園児支援事業			
〈目的〉 将来、就園する子どもや保護者が参加し、幼稚園での生活やルールなどを学ぶ。また、親子で行事に参加し子育ての楽しさや子ども同士の交流を図る。	行政関与の妥当性	B	総合評価
	必 要 性	A	B

<p>《取組みの状況》 未就園児を対象の行事を市内の全ての幼稚園で実施し、総計 109 日にのぼった。運動会などの行事やゲーム遊びなどの活動への参加を通して、幼稚園児と一緒に、楽しく、有意義に活動ができた。</p> <p>《成果》 子どもにとって、幼稚園は、初めての集団生活となる場であるが、就園前に幼稚園に赴き、行事などに参加することにより、安心感を持って就園に望むことができ、より円滑な園活動につなげることができている。</p> <p>《評価》 本事業は、4 歳児からの 2 年制保育を実施している本市にとっても、就園する予定の幼児やその保護者とつながりを持つことができるよい機会である。保護者にとっても、事前にいろいろな情報を得ることができ、安心して就園を迎えられると高評価を得ている。</p>	有効性	B	
	効率・経済性	A	
	23 年度決算(千円)	—	
	24 年度決算(千円)	—	

・活動指標

事業名	活動名	指標	H22 年度 実績	H23 年度 実績	H24 年度 実績	H25 年度 予定	将来目標 (平成 27 年度)	備考
幼稚園教育力向上事業	幼稚園英語活動支援	回数	30	30	30	27	27	市内 9 幼稚園において年間それぞれ 3 回実施の計 27 回に将来目標を修正
		決算(予算)額(千円)	638	653	262	189	—	
未就園児支援事業	未就園児対象行事	実施園	9	9	9	9	9	
		決算(予算)額(千円)	—	—	—	—	—	

《課題》

市立幼稚園は、4 歳児からの 2 年制保育であるが、3 歳児の保育を希望する保護者は多く、また、子育て支援や就学前教育に対する要望も強い。そのような現状を踏まえ、未就園児や保護者を対象に幼稚園と交流する機会を昨年度より増やしたが、各園に今後も働きかけていく必要がある。

《今後の取組み》

地域に根ざした幼稚園として、就学前の園児・保護者、また、他の幼稚園や保育所、就学する地域の小学校とも、連携を取り、計画的・定期的に交流を図っていく。

また、未就園児の保護者にとっても魅力ある幼稚園として、それぞれの園で、創意工夫した、特色ある園づくりに取り組んでいく。

幼児教育の充実

総務課

総合計画の位置付け	<p>政策名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち</p> <p>施策名：就学前教育の充実</p> <p>主な取組み事項：幼児教育の充実</p>
目的	<p>保育の充実と、幼稚園・保育所・小学校の連携を図ることにより小学校教育への移行を円滑に行えるように、健康な心と体を育むとともに、豊かな人間性の育成を目的とする。</p>

主な取組み事項の経緯	
<p>特色のある幼稚園運営や就学前教育の充実を進めるため教職員の研修会への参加を助成するとともに、幼稚園の施設・設備・備品など環境の整備を図る。</p>	

・主な事業

1. 幼稚園運営事業			
<p>〈目的〉 幼児一人ひとりの心身の発達や特性をふまえ、教職員の指導力向上のための研修費助成、また、幼児の健やかな成長のための環境整備を行う。</p> <p>〈取組みの状況〉 幼児教育に必要な新しい分野への研修会参加補助や、幼稚園運営に必要な物品・教材等の整備を図る。</p> <p>〈成果〉 園内外において、園児が楽しみながら体を動かせるように工夫することによってリズム感や運動能力の向上につながった。効果的な備品や教材を整備することにより円滑な幼稚園運営と保育指導が図れた。</p> <p>〈評価〉 備品については、優先順位を決め各幼稚園の要望を取り入れた整備を行った。その結果、各幼稚園とも教育環境の整備を推進することができた。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価 B
	必要性	B	
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	23年度決算(千円)		
24年度決算(千円)			49,256 人件費含む
2. 幼稚園教育振興事業			
<p>〈目的〉 地域に開かれた幼稚園づくりを目的とした事業を展開する。また、園児が行事に積極的に参加できるよう意欲の向上を図る。</p> <p>〈取組みの状況〉 ①全園児が参加する運動会、入園式、卒園式などの行事に対して記念品の贈呈を行った。教員の研修会参加に補助を行った。</p> <p>②市内私立幼稚園に対し、地域に開かれた幼稚園運営の一環として補助を行った。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価 B
	必要性	B	
	有効性	B	
	効率・経済性	B	

<p>《成果》 私立幼稚園運営補助金を活用した地域に開かれた事業として、子育て支援、子育て相談、園開放など様々な交流行事が展開され就学前教育のさらなる振興が図れた。</p> <p>《評価》 独自性のある事業を展開する中で、豊かな経験を通し園児個々の能力を発揮し各園の指導方針に則した幼稚園運営につながった。また、運動会等の記念品贈呈は園児たちの参加意欲を高める上で効果的であるが、内容の工夫が必要である。</p>	23年度決算(千円)	829
	24年度決算(千円)	691

・活動指標

事業名	活動名	指標	H22年度実績	H23年度実績	H24年度実績	H25年度予定	将来目標(平成27年度)	備考
幼稚園運営事業	幼稚園教材備品整備事業	※決算(予算)額(千円)	3,460	3,297	3,778	3,500	3,500	一般備品及び図書備品購入費
	※「決算(予算)額(千円)」は、幼稚園運営事務にかかる事業費のうち幼稚園教材備品整備事業の事業費を表示しています							
幼稚園教育振興事業	研修会事業	※研修会参加負担金(千円)	118	139	90	122	122	
	私立幼稚園補助事業	※決算(予算)額(千円)	200	200	200	—	—	「香芝市まちづくり提案活動支援制度」に移行
※研修参加負担金「決算(予算)額(千円)」は、幼稚園教育振興事業にかかる事業費のうち研修会参加事業の事業費、私立幼稚園補助事業の事業費を表示しています								



【幼稚園運動会の様子】

《課題》

教員の研修会参加助成については、独自性のある幼稚園運営のため内容を精査する必要がある。

また、私立幼稚園運営補助事業は、平成25年度から「香芝市まちづくり提案活動支援制度」へ移行するが、就学前教育の低下とにならないよう動向を見守る必要がある。

《今後の取組み》

特色のある幼稚園運営づくりを目指し、地域、保護者のニーズを取り入れながら、それぞれの教育機能を発揮し、幼児期の健やかな成長を図れるよう支援していく。

幼稚園教育環境の整備

総務課

総合計画の位置付け	政策名：次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名：就学前教育の充実 主な取組み事項：幼稚園教育環境の整備
目的	幼稚園は、園児にとって学習及び生活の場であり、安全確保のための耐震補強工事を優先しながら、豊かな人間性を育む快適な環境を維持するための整備・改修を計画的に進める。

主な取組み事項の経緯
香芝市学校施設等耐震化推進計画に基づき、順次耐震補強工事を進めている。また、緊急性、重要性等を踏まえ、計画的に改修、修繕等を実施し、施設の維持管理に努めている。

・主 な 事 業

1. 幼稚園施設耐震化事業				
〈目的〉 園舎の耐震化により、園児の安全を守り良好な教育環境を確保する。 〈取組みの状況〉 園舎の耐震化については、平成 21 年度に全ての耐震二次診断を完了後、香芝市学校施設等耐震化推進計画に基づいて、順次進めている。平成 24 年度は下田・関屋・三和幼稚園の耐震補強工事を実施するとともに五位堂・関屋幼稚園の実施設計を行った。 〈成果〉 幼稚園 3 園の耐震補強工事を実施したことにより耐震化率が、57.1%から 21.5 ポイント上昇し 78.6%となった。 〈評価〉 平成 24 年度は、補助金の優遇制度を利用し耐震事業を進めてきた。計画的に補助金等を活用して目的を達成しつつある。	行政関与の妥当性	A	総合評価 A	
	必要性	A		
	有効性	A		
	効率・経済性	A		
	23 年度決算(千円)			92, 949
	24 年度決算(千円)			223, 314
2. 幼稚園施設維持管理事業				
〈目的〉 就園する園児に、健康で安全に過ごせる快適な施設環境を提供する。 〈取組みの状況〉 園舎、園舎に付随する設備、園庭、遊具等の保守、点検、営繕工事等を実施している。 〈成果〉 平成 24 年度の計画に対し、園児の教育環境維持のため必要な修理や施設の改修工事等を実施することができた。 〈評価〉 厳しい財政状況の中、幼稚園からの要望に対しても、緊急性、重要性等を考慮し、計画的に事業を進めることにより、安全で安心できる施設環境を提供できた。	行政関与の妥当性	A	総合評価 A	
	必要性	A		
	有効性	B		
	効率・経済性	A		
	23 年度決算(千円)			12, 805
	24 年度決算(千円)			1, 923

・活動指標

事業名	活動名	指標	H22年度実績	H23年度実績	H24年度実績	H25年度予定	将来目標 (平成27年度)	備考
幼稚園施設 耐震化事業	幼稚園施設 の耐震 化事業	耐震化率	50	57.1	78.6	92.9	100	
		耐震化実施棟数	0	1	3	2	1	
幼稚園施設 維持管理 事業	幼稚園施設 維持管理 事業	幼稚園施設延床 面積(m ²)	7,793	7,793	7,793	7,793	7,793	
		維持管理工事費 (千円)	2,824	12,805	1,923	1,700	—	H23年度二上幼稚園 の仮設園舎改修費 を含む



【耐震補強工事が完了した下田幼稚園】

《課題》

幼稚園の耐震化工事は大規模な工事になる場合が多く、工期も長期にわたることから、仮設園舎を建設することにより事業費も高額となる。

《今後の取組み》

園舎で耐震性が不足する残り3棟については、緊急性の高い棟から工事を実施し、平成27年度での耐震化率100%を目標としているが、さらに計画の前倒し等も行い、できる限り早期実現を目指して取組む必要がある。また、今後も各園舎の環境に応じた工事手法を精査し、工期の短縮を図るなど更に工事費の低廉化に取組みたい。

児童生徒の学力・体力の向上

学校教育課

総合計画の 位置付け	政 策 名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施 策 名 : 学校教育の充実 主な取組み事項: 児童生徒の学力・体力の向上
目 的	学齢期の児童生徒は次代を担う世代であり、その育ちのいかんは未来の香芝市の在り方にも大きくかかわっている。したがって、香芝市の次世代の育ちを大切にしていくなめには、児童生徒の様々な力を伸ばしていく必要がある。

主な取組み事項の経緯
児童生徒へ学力・体力をつけるための学校教育活動の充実支援のために、読書活動の充実、外国語活動の推進、体力づくりの奨励、見聞を広めるための校外学習の実施及び学校教育活動への指導、助言等を進めてきた。

・主 な 事 業

1. 国際理解教育推進事業				
〈目的〉 楽しい外国語活動を盛り込みながら、日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深める。また、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。 〈取組みの状況〉 英語を母国語とする外国語指導助手（ALT）をすべての小学校に派遣し、音楽やゲームなど身体活動などを取り入れながら、外国語活動の学習が行われた。 〈成果〉 小学校の1年生から外国人が話す英語に接することにより、外国語（英語）や外国の文化について理解することができ、また、様々な活動を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながった。 〈評価〉 小学校の低・中学年では異なる文化に触れること、高学年では英語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力の素地を養うことにつながる取組みであり、子どもが主体的に外国の文化や言語を学ぼうとする態度は、学習全体の意欲向上に及んでいる。また、教員にとっても、ALTとの授業を通し、英語活動を行うための能力の向上につながっている。	行政関与の妥当性	B	総合評価	
	必 要 性	A		
	有 効 性	B	B	
	効率・経済性	B		
	23年度決算(千円)			7,359
	24年度決算(千円)			5,880

2. 体力向上推進事業			
<p>〈目的〉 児童生徒の体力を向上させる取組みを進め、豊かな人間性の育成につなげる。</p> <p>〈取組みの状況〉 市内のすべての小・中学校を対象に、体力づくり推進に関する研究指定校を公募し、子どもの体力向上に向けた取組みを実施している。24年度は、小学校1校において、「子どもの心と体が育つ授業の創造を目指して」の研究が行われた。また、同小学校の校区の中学校に教員を配置し、中学校区内の児童生徒の体力向上のための取組みを行った。</p> <p>〈成果〉 1年間、市の研究指定校として、全教職員が協力して研究を行い、子どもの体力向上はもちろん、運動に対する意識の向上や運動を通じた心の成長を図ることができた。</p> <p>〈評価〉 以前より、市内各小学校では、一校一運動による学校づくり、体力づくりを行っているおり、指定研究校の研究成果と併せて、目的達成に前進している。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必要性	B	B
	有効性	B	
	効率・経済性	A	
	23年度決算(千円)		
24年度決算(千円)			20

・活動指標

事業名	活動名	指標	H22年度実績	H23年度実績	H24年度実績	H25年度予定	将来目標(平成27年度)	備考
育 国 推 際 進 理 事 解 業 教	国際理解教育推進事業(小学校費のみ)	授業時数	2,248	2,350	1,904	1,880	—	
		決算(予算)額(千円)	7,681	7,359	5,880	6,140	—	
進 体 事 力 業 向 推 上 進 推	推進指定	実施校数	—	4	1	3	—	応募による
	校体力づくり	決算(予算)額(千円)	—	110	20	90	—	

《課題》

子どもの学力や体力を伸ばすためには、短期集中型の取組みでは真の効果は期待できない。子どもたちが、どのような活動にも、継続的に、主体的に生き生きと取組む姿勢を育てることが必要である。そのため、たくましい身体、読む力・書く力・話す力・聞く力・計算能力等といった基礎基本を大切にしながら、わかる授業、楽しい授業を展開する教員の指導力の向上が求められる。

また、体力向上に関しては、より多くの学校が、指定研究を受けることにより、組織的、専門的な体力向上の推進を行っていくことが重要である。

《今後の取組み》

ALTによる英語の授業を含め、それぞれの学校で、公開授業などの研修の場を持ち、授業等に対する教員のスキルアップを図る。また、体力づくりについては、幼稚園から小学校、また中学校へと、それぞれの校種間で連携を取り、行事への参加や部活動などでの交流を図っていきたい。

児童生徒の学力・体力の向上

総務課

総合計画の 位置付け	政 策 名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施 策 名 : 学校教育の充実 主な取組み事項: 児童生徒の学力・体力の向上
目 的	学齢期の児童生徒は次代を担う世代であり、その育ちのいかんは未来の香芝市の在り方にも大きくかかわっている。香芝市の次世代の育ちを大切にしていくためには、児童生徒の様々な力を伸ばしていく必要がある。

主な取組み事項の経緯
児童生徒の学力・体力の向上を図るための取組みとして、教材の充実、体力づくりの奨励、校外学習など学校教育活動に対して物的支援を行った。

・主 な 事 業

1. 小・中学校運営事業				
<目的> 学力・体力の向上に向けた学校運営を図るための支援を行うとともに、特色ある学校づくりを進める。 <取組みの状況> 学校生活において活力を生み出し、日常の活性化を図るため、教職員の研修会参加費用、各学校が実施する校外学習活動及び文化的行事にかかる費用を助成。また、特色のある学校づくりの推進に向けたクラブ備品、教材備品等の予算措置を行った。 <成果> 学校教育活動に必要な費用を助成することにより、児童・生徒が豊かな心を持ち、集団の一員として自覚を深め、豊かな経験を基に学ぶ意欲が養われた。また、学力・体力の向上及び心身の成長につながった。 <評価> 学力・体力づくりに向けた取組みに対し各学校の要望に応じた費用を支援した結果、特色ある学校づくりが進んだ。	行政関与の妥当性	A	総合評価	
	必 要 性	A	A	
	有 効 性	B		
	効率・経済性	B		
	23年度決算(千円)			317,757
	24年度決算(千円)			367,444
2. 小・中学校教育振興事業				
<目的> 体育及び文化活動の充実を図り、児童生徒の「豊かな人間性」を向上させる。 <取組みの状況> 生徒が学校教育活動として各種競技大会の参加に向けた交通費、宿泊費の助成、また、運動会、卒業式等の各種行事に対する記念品の贈呈や、進路・安全対策に要する費用に対して一部補助を行った。	行政関与の妥当性	A	総合評価	
	必 要 性	B	B	
	有 効 性	B		
	効率・経済性	B		

<p>《成果》 県内外の大会競技及び発表会において活躍することにより見聞を広め、豊かな経験と新たな事へのチャレンジ精神が養われた。また、学校行事に参加することで、なかま意識が芽生え、徳・体の調和と心身の成長につながった。</p> <p>《評価》 児童生徒の体力・学力向上に向け、最大限の力が発揮できるよう活躍の場を提供し、情報収集、情報提供を図りながら適切な予算措置を行えた。</p>	23年度決算(千円)	9,408
	24年度決算(千円)	10,457

・活動指標

事業名	活動名	指標	H22年度実績	H23年度実績	H24年度実績	H25年度予定	将来目標(平成27年度)	備考	
運営事業	小中学校	学校教材備品等整備事業	決算(予算)額(千円)	39,711	36,266	23,655	21,500	32,600	22年度に学校ICT環境整備事業の補助金活用により増額
小・中学校教育振興事業	体育・文化活動補助金	対象事業数	86	100	108	110	—	社会見学や、体育の記録会、クラブ活動にかかる交通費等の助成	
		決算(予算)額(千円)	4,341	4,578	4,764	5,040	5,000		
	各種競技大会参加補助金	参加件数	31	28	44	—	—	全国大会、近畿大会に出場するための経費(主に交通費)について助成	
決算(予算)額(千円)		1,817	1,377	2,915	1,300	1,300			



【中学校部活動の様子】

《課題》

教育環境を整えるため、備品整備については学校の要望を基に優先順位を決め、教材の機能を重視しているが、各学校間のバランスをとる必要がある。また、各種競技大会の補助事業については、事業内容を精査し進めていく必要がある。

《今後の取組み》

児童生徒が心身とも健全に成長し豊富な知識と経験を得るため、様々な活躍の場への援助や、豊かな教育、特色のある教育を受けるために、各学校の要望に対応した効果的な教育環境の整備に努めることによって学習意欲の向上を図っていく。

安心して学べる教育環境の整備

学校教育課

総合計画の 位置付け	政 策 名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施 策 名 : 学校教育の充実 主な取組み事項: 安心して学べる教育環境の整備
目 的	地域・家庭・学校・行政が連携し、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた児童生徒の育成ができる教育環境の整備を目指す。

主な取組み事項の経緯
家庭や地域における教育力の低下により、学校教育に求められる内容が多様化しており、心身ともに健康な児童生徒の育成のための様々な取組みが必要となっており、ニーズにそった人的資源の整備が不可欠な状況である。

・主 な 事 業

1. 児童生徒包括的支援事業				
〈目的〉 問題を抱える児童生徒に対して、様々なアプローチから問題解決に取り組み、充実した学校生活を過ごせるように人的環境を整備する。 〈取組みの状況〉 市内の4つの中学校にスクールカウンセラーを配置し、中学校区内の小学校の児童や保護者に対してもカウンセリングを行っている。また、心のケア支援事業やスクールソーシャルワーカーによる不登校などについての心の相談を行った。 〈成果〉 いじめや不登校、また虐待などの問題が発生した時に、専門性を活かして技術的な支援をすることができた。 〈評価〉 不安や心配を抱える児童生徒や保護者に対しては、専門的な助言をすることで、安心感を与えて充実した学校生活につながることで、市民のニーズに応じていると考える。	行政関与の妥当性	A	総合評価	
	必要性	A	B	
	有効性	B		
	効率・経済性	B		
	23年度決算(千円)		3,902	
	24年度決算(千円)		1,232	
2. 特別支援教育推進事業				
〈目的〉 特別な支援を必要とする子どもの適正な就学を図るとともに、社会自立のできる児童生徒の育成を目的とする。 〈取組みの状況〉 就学相談をはじめ、通級指導教室の運営、支援員・介助員の派遣等を行った。 〈成果〉 進学・進級を迎える児童生徒91人に対し、就学相談を行った。全ての小中学校の特別支援学級に、支援員や介助員を配置することにより、より安全で充実した教育活動を行うことができた。 〈評価〉 支援が必要な児童・生徒に対する教員の指導力の向上や、教育環境の整備はまだ十分とは言えない。	行政関与の妥当性	A	総合評価	
	必要性	A	B	
	有効性	B		
	効率・経済性	B		
	23年度決算(千円)		7,938	
	24年度決算(千円)		8,138	
3. 学校給食事業				

<p>《目的》 児童・生徒の心身の健全な発達のために、学校給食の栄養管理・衛生管理・給食指導への支援等適正な学校給食事業の運営を行う。</p> <p>《取組みの状況》 献立作成・給食物資納入等の業務、給食調理業務の民間委託化を進めるとともに、学校給食の充実を図った。また、香芝市立中学校給食実施検討委員会を発足し、7回にわたる審議の結果、完全給食の実施と自校方式の理念・メリットを堅持した中で公設や民設によるセンター方式での実施方式が適切であるとの報告をいただいた。</p> <p>《成果》 年間 185 回、7,000 食余りの給食業務を実施した。中学校ではミルク給食と選択制の弁当給食を実施した。</p> <p>《評価》 平成 24 年度には全小学校で給食調理業務が民間委託となり、安心・安全を確保しつつ経費削減に寄与できた。また、各学校が残食を減らす取組みをし、残食が減少しており食育の効果につながっている。中学校の弁当給食については、平成 23 年度の喫食数は 3.8%であるが、平成 24 年度の喫食数は 3.0%と下がっているが、インフルエンザによる欠席や計画停電による給食の中止が影響しているものと考えられる。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必要性	A	A
	有効性	B	
	効率・経済性	A	
	23年度決算(千円)	469,873	
	24年度決算(千円)	487,287	

・活動指標

事業名	活動名	指標	H22年度実績	H23年度実績	H24年度実績	H25年度予定	将来目標(平成27年度)	備考
的支援事業 児童生徒 包括	スクールカウンセラー配置	配置校数	4	4	4	4	4	拠点校として市内4中学校に配置
		決算(予算)額(千円)	1,375	1,143	1,128	1,150	—	
育推進事業 特別支援教育	特別支援教育支援員配置	配置校	8	11	13	14	14	配置校には緊急雇用創出事業による介助員・支援員を含む(人件費を除く)
		決算(予算)額(千円)	4,238	4,995	4,677	8,370	11,907	
学校給食事業	学校給食の提供(賄材料費)	実施回数	185	185	185	185	185	幼稚園給食・教職員等への給食を含む
		決算(予算)額(千円)	312,798	316,594	314,000	315,200	—	

《課題》

いじめや不登校等の問題を抱える子どもや保護者は、大きな不安を持ち、悩んでいるが、どこに相談すればよいか、わからずにいるケースもある。もっと相談先を明確にし、周知する必要がある。

また、身体障害や発達障害など、特別支援教育を必要としている児童生徒の数は、年々増え続けており、特別支援学級の担当教師だけでなく、全教職員が共通理解のもと、適切な対応が必要である。

安心・安全な学校給食の提供を継続するには、今後も委託業者との効果的・効率的な運営を進めながら、給食サービスの水準の確保を図る必要がある。

《今後の取組み》

児童生徒に関する様々な事柄に対する教育相談の窓口として、生徒指導支援室を設置すると同時に、広く周知させなければならない。更に、特別支援教育に関しては、学校教育の柱の一つとして位置づけ、教員の研修も含め、学校全体で取り組んでいく。

学校給食は、学校教育の活動の一環として実施されるものであり、児童生徒が身体的にも精神的にも大きく成長する大切な時期に栄養バランスのとれた学校給食を通じて、食教育の充実に努める。また、中学校給食については、検討委員会からの報告書をもとに引き続き、学校現場と十分調整しながら取り組んでいく。

安心して学べる教育環境の整備

総務課

総合計画の 位置付け	政 策 名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施 策 名 : 学校教育の充実 主な取組み事項: 安心して学べる教育環境の整備
目 的	地域・家庭・学校・行政が連携し、確かな学力・豊かな心、健やかな体の調和のとれた児童生徒の育成を目指す。 施設面では、学校施設の耐震化を最優先事業と位置付け、安全・安心・快適な学校づくりを推進する。

主な取組み事項の経緯
施設面では、厳しい財政状況の中、緊急性、重要性等を考慮し、計画的に施設の維持管理に努めている。

・主 な 事 業

1. 教育施設耐震化事業				
〈目的〉 学校施設の耐震化により、児童・生徒の安全を守り良好な学習環境を確保するとともに、災害発生時には避難場所としても活用されることから地域住民の安全・安心の確保を図る。 〈取組みの状況〉 香芝市学校施設等耐震化推進計画に基づき、耐震補強工事を順次進めていく 〈成果〉 計画のとおり I s 値の低い体育館 2 棟の耐震補強工事を実施し、完了した。 〈評価〉 国の補助金等を活用するなど早期に目的達成をするため、今後も最優先して取り組むべき事業である。	行政関与の妥当性	A	総合評価 A	
	必 要 性	A		
	有 効 性	A		
	効率・経済性	A		
	23年度決算(千円)			42,305
	24年度決算(千円)			76,375
2. 小・中学校施設維持管理事業				
〈目的〉 児童・生徒に、健康で安全に過ごせる良好な学習環境を提供する。 〈取組みの状況〉 校舎や校舎等に付随する設備、運動場、体育施設等の保守、点検、営繕工事等を実施する。 〈成果〉 学校の良好な学習環境を維持するため必要な機器の修理や、施設の改修・修繕を実施した。 〈評価〉 児童・生徒に良好な学習環境を提供するには必要不可欠な事業であり、計画的に進めることにより、学校施設等の長寿命化にも有効な事業である。	行政関与の妥当性	A	総合評価 A	
	必 要 性	A		
	有 効 性	B		
	効率・経済性	B		
	23年度決算(千円)			165,854
	24年度決算(千円)			194,947

・活動指標

事業名	活動名	指標	H22年度 実績	H23年度 実績	H24年度 実績	H25年度 予定	将来目標 (平成27年度)	備考
教育施設耐震化事業	小学校施設耐震化事業	耐震化率(%)	79.2	79.2	83.3	89.6	100	
		耐震化実施施設数(棟)	1	0	2	3	5	
	中学校施設耐震化事業	耐震化率(%)	75.0	79.2	79.2	79.2	100	
		耐震化実施施設数(棟)	0	1	0	0	5	
小・中学校施設維持管理事業	小学校施設維持管理事業	小学校施設延床面積(m ²)	55,607	55,607	56,294	56,294	56,294	
		維持管理工事費(千円)	10,671	10,922	187,692	166,500	—	
	中学校施設維持管理事業	中学校施設延床面積(m ²)	36,295	36,873	36,873	36,873	36,873	
		維持管理工事費(千円)	11,466	124,644	7,255	5,000	—	H23年度 北中増築工事含む



【耐震工事が完了した下田小学校体育館】

《課題》

施設の耐震化の推進には予算の確保が重要であり、市の財政状況や国の交付金状況を考慮しながら事業を進めていく必要がある。

《今後の取組み》

厳しい財政状況の中、引き続き最小のコストで最大の効果が得られるよう、耐震化や大規模改修に向けた年次計画を策定し、施設管理を実施する。

※ I s 値 0.6 以上の建物は、震度 6 強程度の大地震に対しても建物の倒壊や崩壊する危険性が低いと考えられているが、文部科学省では、学校は I s 値 0.7 以上に補強することとしている。

信頼される学校づくり

学校教育課

総合計画の 位置付け	政 策 名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施 策 名 : 学校教育の充実 主な取組み事項: 信頼される学校づくり
目 的	学校教育の実践にあたっては、現状の教員の資質向上により、市民の負託に応える教育の質の向上を図る。また、教育に寄せる市民の期待は非常に大きく、学校評議員制度等を通じて、学校運営に関し意見を聞き、理解と協力を得ながら特色ある教育活動を展開していく。

主な取組み事項の経緯
教職員の資質向上を図るため、研修の場をそれぞれの園・学校や市教育委員会で計画を実施している。また、学校評議員制度は平成 16 年に市内全ての小中学校で実施し、毎年、学校運営に関し意見を聞き、学校が家庭及び地域と連携協力しながら、地域や社会に開かれた学校づくりをより一層推進し、学校運営を進めている。

・主 な 事 業

1. 教職員資質向上事業			
〈目的〉 様々な研究・実践活動への取組みや研修会への参加を通じて、教職員の資質の向上を図る。 〈取組みの状況〉 園や学校において、授業研究・実践発表、教員研修、教育講演会などを実施した。また、平成 24 年度は、市内の幼稚園、小・中学校から計 8 つの校（園）と研究グループに対し、研究校に指定した。 〈成果〉 研修や講演会を持ち、教員の資質向上に努め、より良い授業づくりや授業内容の充実につなげることができた。また、研究テーマを独自に設定し、研究・実践発表を行うことによって、市全体の教育の向上に広げることができた。 〈評価〉 教員への研修は年々内容を充実させており、教員の主体的な自己研鑽に役立っていると思われる。また、指定研究の事業は、教育現場の課題解決の一助となっており、今後においても必要不可欠である。	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必要性	A	B
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	23年度決算(千円)		
24年度決算(千円)			266

2. 開かれた学校づくり推進事業				
<p>〈目的〉 学校が地域や家庭との連携の強化を図り、それぞれが一体となって子どもの健やかな成長を図ることを目的とする。</p> <p>〈取組みの状況〉 全ての小・中学校において、地域住民や保護者の中から、教育に関する見識を有する5名の学校評議員を置き、定期的に学校評議員による会議を開催して、学校長は学校運営への意見を求めた。</p> <p>〈成果〉 教職員だけでなく、地域や保護者の方々が、学校における教育課題を共有するとともに、学校運営への意見聴取を行い、学校運営に活かすことができた。</p> <p>〈評価〉 開かれた学校づくりは、地域に向けて情報発信を積極的に行い、地域とともに子どもたちの教育を進めるために欠かせない取組みである。本事業により、地域・家庭との連携が強まってきており、目的を達成するためには有効と考えられる。</p>	行政関与の妥当性	A	総合評価	
	必要性	A	B	
	有効性	B		
	効率・経済性	B		
	23年度決算(千円)		588	
	24年度決算(千円)		582	

・活動指標

事業名	活動名	指標	H22年度実績	H23年度実績	H24年度実績	H25年度予定	将来目標(平成27年度)	備考
教職員資質向上事業	教育研究費助成	研究・実践発表園校及び団体数	8	9	8	9	—	園・学校からの応募による
		決算(予算)額(千円)	200	250	150	230	—	
開かれた学校づくり推進事業	学校評議員会	開催回数	42	42	42	42	42	各学校で年3回
		決算(予算)額(千円)	594	588	582	630	630	

《課題》

学校は、積極的に地域や家庭へ情報を発信しなければならない。学校評議員を置くことにより、開かれた学校へと改善されつつあるが、それぞれの学校が抱える教育課題について、引き続き、地域や家庭と連携をとり、課題解決に努めていく必要がある。

《今後の取組み》

研修会や講演会では、いじめや体罰問題、道徳教育の充実といった喫緊の教育テーマを掲げ、研修を行い、教職員の資質向上を図る。

また、学校と地域や家庭と強固な連携を図るためにも、地域や家庭へ、学校のホームページや紙面など様々な方法を活用し、学校より情報を発信し、開かれた学校、親しみのある学校づくりに努める。

子どもの居場所づくり

生涯学習課

総合計画の位置付け	政策名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名 : 子ども・若者のフォローアップ(青少年の健全育成) 主な取組み事項 : 子どもの居場所づくり
目的	地域・家庭・学校・行政等の連携のもと、自然や人々とのふれあい、社会参加活動を推進し、青少年の情操教育を行い、次代を担う青少年の健全な育成を図る。

主な取組み事項の経緯
近年、核家族化や都市化が進行し、コミュニケーション不足から、家庭や地域社会における教育機能の低下が懸念される中、イベントやふれあいの場を設定することにより、青少年の健全な育成を図るとともに地域や家庭・学校等の中での絆づくりを図ってきた。

・主 な 事 業

1. 子どもフェスティバル事業			
〈目的〉 子どもたちが休日に保護者や友だち、地域社会の人たちとふれあい、豊かな心を育てるためのコミュニケーションの場を提供すること。 〈取組みの状況〉 子どもフェスティバルに参加する子どもたちや親子が物づくり・体験・体感をとおして、地域社会の人たちとふれあい、健康な心を育むことを目指し関係諸団体と協力して取り組んでいる。 〈成果〉 子どもたちや親子が休日の一日(2,800人参加)を有意義に過ごし、ふれあいやコミュニケーションを取り、豊かな心を育むことができた。 〈評価〉 子どもたちの楽しい一日が設定することができコミュニケーション作りや豊かな心を育むことができていると考える。	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必要性	B	B
	有効性	A	
	効率・経済性	B	
	23年度決算(千円)	39	
	24年度決算(千円)	31	
2. 青少年野外活動センター管理運営事業			
〈目的〉 自然とふれあい仲間づくりを大切にし、豊かな心でたくましく青少年を育成することを目的として野外活動の場を提供する。 〈取組みの状況〉 青少年団体や家庭・地域がふれあいと交流を深める場として青少年野外活動センターを活用するように目指している。ただし、施設の老朽化や施設付近の立地条件や利用者の変化等を配慮しながら利用推進を図った。 〈成果〉 平成24年度は4,013人の利用があったが、社会教育団体(5月～7月)の利用者は減少し、一般の利用者は増加した。仲間づくりを大切にし、豊かな心を養う青少年の健全育成を図ることができた。 〈評価〉 野外活動で自然を体験することにより社会生活を学び、青少年の健全育成に有効であると考え。	行政関与の妥当性	B	総合評価
	必要性	B	B
	有効性	C	
	効率・経済性	B	
	23年度決算(千円)	1,972	
	24年度決算(千円)	1,934	

3. 成人式事業			
〈目的〉 成人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を社会の一員として受け入れ、多くの仲間たちと連携して、地域社会の担い手として前途を励ます。 〈取組みの状況〉 式典の運営・企画等は新成人による実行委員会形式で、行政と連携して実施している。 〈成果〉 新成人が実行委員として、企画・運営に携わり、式典の当日は、司会進行や招待者接待等の役割を務め、高評を得る。新成人の参加率は約79%であった。 〈評価〉 新成人とともに成人式を企画・運営をし、心に残る式典運営が行うことができていると考えられる	行政関与の妥当性	A	総合評価 B
	必要性	A	
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
		23年度決算(千円)	
	24年度決算(千円)		1,379

・活動指標

事業名	活動名	指標	H22年度実績	H23年度実績	H24年度実績	H25年度予定	将来目標(平成27年度)	備考
子どもフェスティバル事業	子どもフェスティバル	参加人数(人)	1,500	2,274	2,800	3,000	3,000	
		決算(予算)額(千円)	27	39	31	30	70	事業費増
青少年野外活動センター事業	青少年野外活動センター管理運営業務	利用者数(人)	4,248	4,745	4,013	4,500	5,000	
		決算(予算)額(千円)	1,991	1,972	1,934	2,171	2,000	夜間使用増
成人式	成人式運営	式典参加者数(人)	593	580	638	700	700	
		決算(予算)額(千円)	988	1,332	1,379	1,639	1,500	対象人数の増加



【子どもフェスティバル】



【青少年野外活動センター】



【成人式】

《課題》

子どもフェスティバル事業は、実行委員会形式で実施しているが、参加団体に依存度が大きく、市からの予算を確保する必要がある。青少年野外活動センターは、周辺の環境が設置当初より大きく様変わりし、本来の野外活動が利用しやすいように点検や施設の改善を行い、現状の施設を踏まえた中で、利用者に理解を得ながら、青少年野外活動センターの運営をして行くことが必要である。

《今後の取組み》

子どもフェスティバルは、ふれあいフェスタと共同開催ということもあり、少額の予算であるが、今後においてもふれあいフェスタと連携しながら、企画・運営していく必要がある。

平成25年度は、まちづくり提案活動支援制度の行政提案型事業を利用して実行委員会としての充実した子どもフェスティバルの開催に取り組んでいきたい。

広報啓発の強化

青少年センター

総合計画の 位置付け	政 策 名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施 策 名 : 子ども・若者のフォローアップ(青少年の健全育成) 主な取組み事項 : 広報啓発の強化
目 的	青少年の健全育成に対する市民の意識高揚と家庭の教育力向上を図るため、広報啓発活動を行う。

主な取組み事項の経緯
市民集会や推進大会などの青少年健全育成活動事業を開催するにあたり、市民や保護者に対する広報啓発を強化し、多くの参加を得ている。また、街頭指導等については、非行の早期発見や犯罪に関わることを未然に防止するため、駅頭啓発や市内の防犯パトロールを強化している。今後も広報紙への掲載や青少年の模範となるような行動の実践を呼びかける。

・主 な 事 業

1. 「少年の主張」事業				
〈目的〉 市立の小・中学生が家庭や学校、友人、地域社会について日頃考えていることや、抱えている想いを多くの市民に伝えることを目的とする。 〈取組みの状況〉 市民集会に向けて市内各小・中学生より作文を募集し、審査会で選考された作文を発表した。また、関係機関、団体が連携することで地域の教育力向上を図り青少年の健全育成の推進に努めた。 〈成果〉 発表をとおして多くの市民に、本市の子どもたちの考えに関心を深めてもらった。 〈評価〉 200名の参加があり大変好評であった。多くの市民に、今の小・中学生の考えを作文発表という形で提供できたことは有意義であった。今後は、青少年の健全育成に向け、家庭・学校・地域社会また、関係機関・団体がより緊密に連携を図ることが重要な事業である。	行政関与の妥当性	A	総合評価 A	
	必要性	A		
	有効性	B		
	効率・経済性	A		
		23年度決算(千円)		1,087
		24年度決算(千円)		1,050
2. 広報啓発活動事業				
〈目的〉 次代を担う本市の青少年の健全育成を図るにあたり、市民が規範意識の向上と望ましい行動様式を確立し、模範を示すという見地から関係機関・団体と連携し本活動に取り組む。このことにより、市民に青少年の健全育成に対する理解と認識を浸透させ人としての温かさや思いやりのある豊かな人間形成を目指す。 〈取組みの状況〉 青少年健全育成推進大会、香芝市内4中学校区青少年補導員合同研修などを開催し、市民に健全育成について啓発し、少年補導員や青少年指導員、行政関係者とともに市内の駅頭で年2回の啓発活動を行った。また、のぼり旗、広報車などの各種広報媒体を活用して広報と啓発を行った。	行政関与の妥当性	A	総合評価 A	
	必要性	A		
	有効性	A		
	効率・経済性	B		

<p>〈成果〉 本市においては、青少年による大きな事件や事案は発生していない。これは、青少年健全育成協議会等が主体となる活動が一役を担っている。</p> <p>〈評価〉 本活動は、良い結果を出しているが青少年の問題行動や非行は、関係者の努力にもかかわらず低年齢化に加え増加傾向にあり、その解決のために引き続き、関係機関・団体と連携して推進していくことが必要である。</p>	23年度決算(千円)	1,087
	24年度決算(千円)	1,050

・活動指標

事業名	活動名	指標	H22年度実績	H23年度実績	H24年度実績	H25年度予定	将来目標(平成27年度)	備考
少年の主張	市民集会	参加者数	245	267	200	240	240	
発活動啓	健全育成推進大会	参加者数	281	240	120	150	240	



【香芝市青少年健全育成推進大会】



【近鉄五位堂駅前広場での駅頭啓発】

《課題》

青少年を非行や被害から守り、心身ともにたくましく育成していくこと。また、多くの市民に青少年の現状について理解いただくこと。更に今後より多くの市民に青少年の健全育成についての関心や理解を深めてもらうことが課題となる。

《今後の取組み》

青少年を非行から守り、心身ともにたくましく、自立した青少年を育成していくためには地道な取組みが必要である。市民集会においては「少年の主張」における内容の向上を図るため各学校に対し、その主旨の徹底を図る。また、環境浄化活動については、市内各機関の美化清掃など大人が青少年の模範となる活動を実施するとともに、より広範な機関・団体などへの啓発を進める。

子ども見守り活動の推進

青少年センター

総合計画の 位置付け	政策名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名 : 子ども・若者のフォローアップ(青少年の健全育成) 主な取組み事項 : 子ども見守り活動の推進
目的	青少年による非行の早期発見や犯罪の被害から守るため、店舗への立入りや巡視活動を推進する。また、良好なまちの景観形成を図るとともに、違反広告物の除却作業により環境美化を推進する。

主な取組み事項の経緯	
近年、全国的に青少年の非行は凶悪化・低年齢化の傾向が見られる。さらには情報化・消費社会化等の進行により青少年の健全な育成を阻害する恐れのある有害な情報等が氾濫し、それに加えて大人社会のモラルの低下が青少年の意識や行動に大きな影響を及ぼしている。このような状況下、本市では学校・地域・補導活動専門委員等と連携し、市内巡視や店舗等への立入調査及び子ども見守り活動での下校指導や防犯パトロールを強化している。	

・主 な 事 業

1. 市内特別巡視事業			
〈目的〉 青少年センターと少年補導員等、関係機関・団体とが連携して実施する補導活動により、青少年非行の早期発見や犯罪に関わることを未然に防止し、健全な育成を図る。 〈取組みの状況〉 警察や少年補導員など関係機関・団体と連携し、補導活動や夏期・冬期夜間特別巡視、祭礼巡視などの巡視活動を実施した。また、児童生徒の下校時に合わせ、見守り活動や定期パトロールを行った。 〈成果〉 各校区において警察や少年補導員など関係機関・団体による下校指導や見守り活動により、子どもを取り巻く大きな事件や事案は発生していない。 〈評価〉 現状においては、良い結果が出ており、引き続き活動を推進していくことが必要である。	行政関与の妥当性	A	総合評価 B
	必要性	A	
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	23年度決算(千円)	1,087	
	24年度決算(千円)	1,050	

・活 動 指 標

事業名	活動名	指 標	H22年度 実績	H23年度 実績	H24年度 実績	H25年度 予定	将来目標 (平成27年度)	備 考
視 事 業	市内・夜間 特別巡視	回 数	262	310	150	200	300	平成23年度以前は件数。平成24年度以降は、実施日数。

【合同立入調査】



【カラオケ店】



【コンビニ】

《課題》

子ども見守り活動を推進するには、警察や少年補導員など関係機関・団体と連携し、計画に沿って共に活動を図ること。

《今後の取組み》

全国的に青少年の非行は凶悪化・低年齢化の傾向が見られる。現在はスマートフォンの普及に伴いインターネットとりわけラインなどにより青少年の健全な育成を阻害する恐れのある有害な情報等が氾濫し、更には大人社会のモラルの低下が青少年の意識や行動に大きな影響を及ぼしている。

このような状況下、今後更に学校・地域・補導活動専門委員等と連携し、インターネットなどの影響を監視し、また、市内巡視や店舗等への立入調査を行うとともに、防犯パトロール等を強化していきたい。

体験学習の機会の提供

青少年センター

総合計画の位置付け	政策名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名 : 子ども・若者のフォローアップ(青少年の健全育成) 主な取組み事項 : 体験学習の機会の提供
目的	ふるさとの自然や文化にふれるとともに、体験活動や野外活動をとおして、親子・なかまのふれあいを図りながら、自主性や社会性、協調性を身につけ、子どもが自ら取組み、さらには問題解決に向けた意欲や能力を培う。

主な取組み事項の経緯
広報紙で一般公募した小・中学生、(保護者)を青少年指導員の指導の下、体験的な場所へ引率指導する。

・主 な 事 業

1. ふるさと探訪事業				
<目的> 体験活動や見学をとおし、環境保全に興味・関心を抱かせる(環境教育)とともに集団でのマナーやルールの意識を養い(規範意識の獲得)、社会性や豊かな人間性を育み、健全な青少年の育成を図る。 <取組みの状況> 広報紙で一般公募した小・中学生を青少年指導員の指導の下、歴史的、体験的な場所へ引率指導した。 <成果> 本事業に参加し、様々な体験や参加者とのふれあい、交流をとおして協調性や規範意識を育むことができた。 <評価> 参加者や保護者からも好評である。市内各地域から集まることにより新しい仲間づくりができることや新しい発見やふれあいが子どもの成長に大きな効果があった。	行政関与の妥当性	A	総合評価	
	必要性	A	A	
	有効性	A		
	効率・経済性	B		
	23年度決算(千円)		304	
	24年度決算(千円)		270	
2. ファミリー雪体験ツアー事業				
<目的> 日常、体験のできない雪原に引率し、家族や参加者同士が絆や交流を深める中で集団でのマナーやルールを守るとともに、社会性や豊かな人間性を育み健全な青少年の育成に努める。 <取組みの状況> 広報紙や学校へのチラシ配布で一般公募した小・中学生とその保護者を青少年指導員の指導のもと、雪原へ引率し、雪像作りや雪合戦など日ごろ体験できない活動を行った。 <成果> 本事業をとおして、家族や参加者同士が交流する中で、集団での協調性や規範意識の向上につなげることができた。 <評価> 小・中学生やその保護者からも参加して大変良かったと好評であった。様々な体験や参加者との交流が子どもの成長に大きな効果があると考えられる。	行政関与の妥当性	A	総合評価	
	必要性	A	A	
	有効性	A		
	効率・経済性	B		
	23年度決算(千円)		307	
	24年度決算(千円)		270	

・活動指標

事業名	活動名	指標	H22年度実績	H23年度実績	H24年度実績	H25年度予定	将来目標 (平成27年度)	備考
探訪事業 ふるさと	体験活動	参加者数	32	25	15	35	40	平成25年度より わくわくキッズ体験 ツアーに名称変更
ツアー事業 ファミリー雪体験	体験活動	参加者数	80	72	79	80	80	



【雪体験ツアー(滋賀県余呉赤子山)】



【ふるさと探訪(吉野町 国栖の里)】

《課題》

各事業や参加状況については、年度や内容に増減があるものの希望者については年々増加傾向を示している。ただ、指導員の人数や経験の問題については課題として残っている。

《今後の取組み》

各事業については、青少年指導員会議で決定されるが、常に見直しを加え、魅力のある事業を計画したい。募集についても広報紙だけでなく学校へのチラシ配布の充実を図り、小・中学生の興味のある内容も考えていきたい。また、指導員の確保については、広報紙やその他の方法で改善を図りたい。

適応指導の充実

青少年センター

総合計画の 位置付け	政策名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名 : 子ども・若者のフォローアップ(青少年の健全育成) 主な取組み事項 : 適応指導の充実
目的	青少年や保護者及び関係者の教育の悩みに対して相談活動を実施し、必要な助言・援助またはカウンセリングを行い、関係機関を紹介する。不登校児童生徒への早期対応をはじめ、より一層きめ細やかな支援を行う。また、適応指導教室では、登校できない児童生徒を対象に、集団生活への適応指導を行い、学校への復帰を援助する。

主な取組み事項の経緯
保護者及び学校と定期的な連絡会や面談を行うことで、子どもの状況に応じた多様な方法で学校生活への復帰を支援する。また、相談内容は複雑多岐にわたり、より専門的対応が要求されている。

・主な事業

1. 教育相談事業				
〈目的〉 家庭教育・学校教育上の諸問題(学習、生活、対人関係等)について、個人の持つ悩みや困難な状況を解決、援助することにより、その児童生徒及び保護者について心のケアを図る。 〈取組みの状況〉 社会教育指導員による教育相談(14時～17時)と臨床心理士による心理相談(火・木曜 13時～17時)や家庭訪問を実施した。 〈成果〉 相談者の悩みの解消や心のケアを中心に考えた結果、本人・家族の安心感につながっている。また、学校教育課にスクールソーシャルワーカー(S SW)が配置され連携をとることや、社会教育指導員による教育相談や家庭訪問等を行っていることを知る保護者が増加したため相談件数も増えた。 〈評価〉 臨床心理士のカウンセリングは、継続されている方がほとんどで相談者の悩みや困難な状況について解決の糸口になっては来ているが更なる支援が必要な事業である。	行政関与の妥当性	A	総合評価 A	
	必要性	A		
	有効性	A		
	効率・経済性	B		
		23年度決算(千円)		1,600
		24年度決算(千円)		1,809

・活動指標

事業名	活動名	指標	H22年度実績	H23年度実績	H24年度実績	備考
教育相談事業	相談活動 (指導員)	相談回数	206	278	381	教育相談活動は平成 25 年度学校教育課・生徒指 導支援室において実施
	相談活動 (臨床心理士)	相談回数	337	213	253	
		合計	543	491	634	



【すみれ教室 ①】



【多目的室】



【すみれ教室 ②】

《課題》

現状においては、潜在的に児童・生徒がいると思われるため、広報紙等で支援を必要としている市民に知ってもらう必要がある。

《今後の取組み》

平成 25 年度より学校教育課で実施していくが、今まで以上にハートフレンドの活用を強化し、児童・生徒のケアや臨床心理士への相談等を周知していきたい。

生涯学習機会の充実

生涯学習課

総合計画の 位置付け	政策名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名 : 「だれでも・どこでも・いつでも」学び、楽しめる教育環境の充実 主な取組み事項 : 生涯学習機会の充実
目的	市民が学習に取り組める環境の整備と、生涯学習に取り組むことを通して、その学習内容をまちづくりに活かせるよう、循環型生涯学習の展開を目的とする。

主な取組み事項の経緯
効率的・効果的な学習機会を提供できるよう、講座参加者からのアンケート等を参考にしてニーズを把握し、学習内容の充実を図ってきた。

・主 な 事 業

1. 市民公開講座事業			
〈目的〉 近年高度化、多様化する市民の学習意欲に積極的に対応し、生涯学習を活性化するため、市と連携している大学との協働により、市民の充実した学習機会を設け支援すること。 〈取組みの状況〉 幅広く市民に学習の機会を提供し、楽しく学べる講座を開設している。 〈成果〉 「親子関係」をテーマにし、子どもに関わる成人の方を対象とした講座を開催したことにより受講者が増加した。 〈評価〉 日程やテーマ別に開催しているが受講者に減少傾向が見られず、市民のニーズ等を取り入れられていると考える。	行政関与の妥当性	A	総合評価 B
	必要性	A	
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	23年度決算(千円)		183
	24年度決算(千円)		178
2. 市美術展覧会事業			
〈目的〉 市民に芸術に対する関心を高めて生涯学習の一助とするとともに、市の美術・芸術の振興を図ること。 〈取組みの状況〉 市民の美術に対する関心を高め、生涯学習の成果を発表する場を提供し、市の美術・芸術の振興を図っている。 〈成果〉 市内外を問わず日々研鑽した作品 161 点の出品があった。出品作品の高度化により、芸術への関心が高まり、観覧する方が大幅に増加した。 〈評価〉 出品数は横ばい状態で質的には年々、レベルの高い美術展覧会と評価を受け、本市の芸術振興が図れているものと考えられる。	行政関与の妥当性	A	総合評価 B
	必要性	A	
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	23年度決算(千円)		736
	24年度決算(千円)		795

3. 学級生大会事業				
〈目的〉 社会教育学級生が一年間の学級活動の総まとめとした「テーマ」を掲げ、学級生同士が自己を高め連帯意識を持つこと。 〈取組みの状況〉 一年間の学級活動の発表の場であり、自己啓発の場であるため、支援・協力・助言を的確に行うように取組んでいる。 〈成果〉 学級生大会を開催することにより、目的でもある「自己を高め連帯意識を持つ」ことができ、有益に実現できた。ただし、参加者は減少した。 〈評価〉 学級生が一年間の学級活動のまとめを創意工夫し意欲的に発表の場を活用している。また、学級生同士の連帯感を強めている。	行政関与の妥当性	B	総合評価	
	必要性	B	B	
	有効性	B		
	効率・経済性	B		
	23年度決算(千円)			32
	24年度決算(千円)			64

・活動指標

事業名	活動名	指標	H22年度実績	H23年度実績	H24年度実績	H25年度予定	将来目標(平成27年度)	備考
事業 市民公開講座	市民公開講座	開催数	5	5	5	6	6	環境学習講演会
		参加者数(人)	162	310	404	500	500	
		決算(予算)額(千円)	176	183	178	270	250	提携している大学との協力開催
事業 市美術展覧会	市美術展覧会	出品数(点)	136	161	161	200	200	
		来場者数(延べ人数)	452	581	750	750	800	
		決算(予算)額(千円)	802	736	795	833	875	
大会事業 学級生大会	学級生大会	参加者数(人)	246	204	189	250	250	
		決算(予算)額(千円)	32	32	64	87	80	



【 市民公開講座 】



【 市美術展覧会 】



【 学級生大会 】

《課題》

市民公開講座は、広く市民が参加できるテーマとしたことで、参加者が大幅に増加した。今後もテーマも広く捉えた中で周知する必要があると考える。学級生大会は、参加者にやや減少傾向が見られるが、学習意欲の向上や交流は、図れていると考えられるため、更なる事業充実が必要である。

《今後の取組み》

事業開催については、市民の「ニーズ」を取り入れた学習機会の提供を行うとともに、学習成果の発表の機会を増やし、気軽に参加できるような学習内容の推進に努める。

スポーツ団体の支援

生涯学習課

総合計画の位置付け	政策名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名 : 「だれでも・どこでも・いつでも」学び、楽しめる教育環境の充実 主な取組み事項 : スポーツ団体の支援
目的	スポーツ少年団、レクリエーション協会等の活動支援と充実、広範な年齢層に多様な種目のスポーツを指導することができるスポーツ推進委員等の育成・支援によって充実を図り、多様化・高度化する市民のスポーツニーズに対応する。

主な取組み事項の経緯

スポーツ少年団においては、スポーツを通じて健全育成に努めている。指導者においても、講習会・研修会を開催し指導者の資質向上に努めている。また、レクリエーションの普及振興を図るため、体験入会デーを開催し、活動状況を発表し、市民参加を呼びかけ、体験を行い参加の拡大を図っている。

・主 な 事 業

1. スポーツ少年団支援事業			
〈目的〉 香芝市スポーツ少年団の普及と育成及び活動の活性化を図り、青少年にスポーツを振興し、青少年の健全な育成指導に関する事項を協議し、相互の連絡を密にすること。 〈取組みの状況〉 入・退団式、親善競技大会、種目別交流大会等。スポーツを通じて県内外のスポーツ少年団と交流活動を行っている。指導者・母集団においては、研修会・講習会にて指導者の資質の向上に努めている。 〈成果〉 各団が自主的で主体性をもった活動を展開しており、スポーツを通して青少年の健全育成を図った。平成 24 年度の団員は、768 名であり、指導者は 282 名である 〈評価〉 本来の主旨に相反するような技術向上だけを重視する偏った指導が部で見受けられ青少年の健全な指導育成につながっていない懸念がある。指導者の資質向上のため、研修会・講習会・意見交換等を行なう必要がある。	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必要性	A	B
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	23 年度決算(千円)		1,270
	24 年度決算(千円)		1,270
2. 各種団体支援事業			
〈目的〉 市民の余暇生活を開発し、充実させるため、レクリエーションの普及振興を図り、市民の心身の健全な発達と明るく豊かな生活の形成に資することを目的とする。 〈取組みの状況〉 市民だれもが参加し活動出来るイベントとして、クラブフェスティバル・ペタンク大会・体験入会デーの開催と、年間を通して協会加盟クラブ活動日に市民のオープン参加を呼びかけている。 〈成果〉 体験入会デーを開催し日頃の活動の成果を発表し、加入募集を行い 15 名の入会がありレクリエーションの普及振興が図られた。 〈評価〉 各種イベント等を開催しているが拡大に繋がっておらず、また、PR 不足でもある。	行政関与の妥当性	B	総合評価
	必要性	A	B
	有効性	B	
	効率・経済性	B	
	23 年度決算(千円)		180
	24 年度決算(千円)		180

・活動指標

事業名	活動名	指標	H22年度実績	H23年度実績	H24年度実績	H25年度予定	将来目標 (平成27年度)	備考
スポーツ少年団 支援事業	スポーツ少年 団事業	団員登録 人数	803	797	768	710	800	
		加入率 (%)	17.3	17.0	16.3	15.1	20.0	
		決算(予算) 額 (千円)	1,270	1,270	1,270	1,270	1,270	
各種団体 支援事業	レクリエーション協 会事業	加入者数	477	492	425	450	500	
		事業実施数	8	9	9	11	15	
		決算(予算) 額 (千円)	180	180	180	51	100	H25 まちづく り提案活動支 援事業



【スポーツ少年団入団式】



【レクリエーション活動】

《課題》

各団のそれぞれ自主的・自発的に活動を行っているが、加入する団員が減少傾向にあり、また勝敗にこだわるクラブチーム的な活動に成りつつある。指導に関しても、指導者の資質が問われる現状である。指導者等の育成・充実を図るとともに、資質向上を行う必要がある。

レクリエーション事業においては、参加者の高齢化も進んでいる。

《今後の取組み》

スポーツ少年団の原点であるスポーツの遊び・スポーツを通じてこころとからだを育てることを見つめ直し、積極的に地域と連携・協力し、住民にも理解していただける事業の充実・発展に取組み、本来のスポーツ少年団活動にしていきたい。

指導者の資質向上のために、より一層の研修会・講習会・意見交換の充実をはかっていきたい。

市民の余暇生活を充実させ、明るく豊かな生活に資するためにも、レクリエーション普及活動・振興の強化を図る必要がある、特に若年層へのPR活動を積極的に行っていきたい。

中央公民館活動の活性化

中央公民館

総合計画の 位置付け	政策名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名 : 「だれでも・どこでも・いつでも」学び、楽しめる環境の充実 主な取組み事項 : 中央公民館活動の活性化
目 的	生涯学習活動の拠点施設として、市民の積極的な参画を促し、生涯学習の場、ふれあいの場として各種講座や講演会等を開催し、学習機会の提供と学習活動の支援を行う。 また、教育・文化サークル団体の活動の場を提供するとともに、公民館まつり等で日頃の学習成果を発表し、会員相互の親睦を図る。

主な取組み事項の経緯
各種講座、高齢者学級、総合事業等を開催するとともに、夏休み親子体験教室を開催した。特に「開講のつどい」や「春のつどい」で生涯学習の必要性、大切さや連帯感を確認して、公民館まつりでは各サークル団体の学習活動の成果を発表する機会を設けて実施した。

・主 な 事 業

1. 生涯学習機会提供事業			
〈目的〉 市民の積極的な参画を促し、だれもが学習の機会に恵まれ、生涯学習のきっかけづくりの場、情報の提供・推進を図る。 〈取組みの状況〉 11の各種講座、11の夏休み親子体験教室を募集し多くの講座で定員を超える申し込みがあり、抽選で受講生を決定した。また、総合事業等の参加者の減少がみられ、対策に早目にチラシ等を作成し、公民館利用者等に配布して参加を呼びかけた。 〈成果〉 参加者が若干減少気味であるが、市民の方が各種講座、つどいに参加し、学習意欲の向上だけではなく、気持ちにゆとりができ、人々が交流するよい機会になった。 〈評価〉 公民館の主催する各種講座・教室や事業は有効に機能していると考えられる。	行政関与の妥当性	A	総合評価
	必 要 性	A	A
	有 効 性	B	
	効率・経済性	A	
	23年度決算(千円)		
24年度決算(千円)			1,920
2. 登録団体育成事業			
〈目的〉 サークル団体の養成と育成を図り、活動支援をして公民館活動の活性化を図った。 〈取組みの状況〉 平成24年度は113の団体登録があり、継続的に公民館を利用して学習成果を高め技能の習得に努めてきた。 〈成果〉 公民館まつり等をとおして日頃の学習成果を発表し、会員相互の親睦を図り仲間意識、連帯感を図れた。	行政関与の妥当性	B	総合評価
	必 要 性	A	B
	有 効 性	B	
	効率・経済性	B	
	23年度決算(千円)		

《評価》 各サークル団体とも会員の高齢化が進んでいるが、公民館活動の活性化を図ることができた。	24年度決算(千円)	—
---	------------	---

・活動指標

事業名	活動名	指標	H22年度実績	H23年度実績	H24年度実績	H25年度予定	将来目標(平成27年度)	備考
生涯学習機会提供事業	講座・教室	開設数	22	22	22	22	25	親子体験教室含
		決算(予算)額(千円)	1,076	1,102	991	1,048		
	開講のつどい	参加者数	500	550	500	540	800	モナミ
		決算(予算)額(千円)	377	380	312	334		
	春のつどい	参加者数	850	800	600	800	800	モナミ
		決算(予算)額(千円)	525	380	289	336		
	公民館まつり	参加者数	4,800	4,950	4,800	5,000	5,500	モナミ・本館
決算(予算)額(千円)		340	340	328	368			
育成事業 登録団体	育成事業	団体数	119	114	113	114	120	
		会員数	2,408	2,349	2,277	2,225	2,500	
中央公民館	利用状況	利用件数	4,009	4,048	4,815	5,000	5,200	本館のみ
		利用人数	72,104	68,245	74,164	77,000	80,000	〃
		使用料(千円)	3,918	4,185	4,460	4,300	5,000	〃



【公民館まつり】



【成人講座】

《課題》

市民の学習意欲のニーズが高まる中、今年度開催した事業全体の内容等を検討して、今後とも社会変化に対応した各種講座や事業等の充実に努める。そして登録団体の高齢化を考えて支援対策と人材活用を講じる必要がある。

《今後の取組み》

登録団体の学習活動支援を継続しつつ、登録団体と公民館が共催で入門講座を開催し、団体の活性化と次代を担う指導者の発掘と養成を図る。また、公民館の事業を効果的にアピールすることと、公民館まつりを市民の活力を生かして協働で盛り上げるための実行委員会を立ち上げていく。

図書館機能の充実

市民図書館

総合計画の 位置付け	政策名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施策名 : 「だれでも・どこでも・いつでも」学び・楽しめる教育環境の充実 主な取組み事項 : 図書館機能の充実
目 的	生涯学習施設の一つとして、市民の学習や暮らしを支えるとともに、地域課題の解決に役立つ資料や情報を幅広く収集・保存し、提供する。

主な取組み事項の経緯 平成4年4月の開館以来、「本との出会い・人との出会い」を大切に、「暮らしに役立つ図書館」「親しまれる図書館」を目指し、貸出冊数の拡大、夜間開館、祝日開館の実施、パソコンや携帯からの蔵書検索・予約など、利便性の向上を図ってきた。また、学校との連携強化、団体貸出、保育所や学童保育所への巡回など、子どもの読書環境の整備に取り組んできた。
--

・主 な 事 業

1. 図書館資料提供事業				
〈目的〉 市民の主体的な学習への支援や多種多様な読書要求に対応するために、図書等の資料や情報の提供を行う。 〈取組みの状況〉 図書や視聴覚資料などを収集・整理・保存し、閲覧、貸出、調査・相談、複写などにより、資料や情報の提供を行っている。 〈成果〉 貸出冊数は減少傾向にあるが、市民1人当たりの貸出冊数は7.2冊と高い値を示しており、また、予約件数は伸びている。 〈評価〉 社会の変化の中で、図書館の利用が多様化している中、資料を収集し、利用者に提供するという図書館の本来的な事業は定着し有効に機能している。	行政関与の妥当性	A	総合評価	
	必 要 性	A	B	
	有 効 性	B		
	効率・経済性	B		
	23年度貸出冊数			589, 204
	24年度貸出冊数			560, 439
2. 子どもの読書活動推進事業				
〈目的〉 市内のすべての子どもが心豊かに育つために、あらゆる機会や場所で本と出会って楽しむことができるよう、子どもの読書環境の整備を図る。 〈取組みの状況〉 おはなし会等を市民グループと協力し開催。学校に対して図書館だよりの配付、図書館見学等を通じ利用促進を図る。 〈成果〉 貸出冊数は横ばい傾向であるが、巡回による学童保育所等の団体貸出は増加している。 〈評価〉 学校との連携強化は配送サービスの活用により充実してきており、保育所・学童保育所への巡回サービスは、移動図書館車「ぶっくる号」の活用により、今後より充実が図れるものとする。	行政関与の妥当性	B	総合評価	
	必 要 性	A	B	
	有 効 性	B		
	効率・経済性	B		
	23年度貸出冊数			222, 501
	24年度貸出冊数			218, 855

・活動指標

事業名	活動名	指標	H22年度実績	H23年度実績	H24年度実績	H25年度予定	将来目標 (平成27年度)	備考
図書館資料提供事業	蔵書冊数	冊	224,099	226,952	231,055	240,000	250,000	図書・雑誌・視聴覚
	貸出冊数	冊	595,714	589,204	560,439	580,000	600,000	図書・雑誌・視聴覚
	予約件数	件	25,991	27,654	28,814	30,000	35,000	
	レファレンス件数	件	2,958	3,197	2,915	3,500	3,500	
進事業 子どもの読書活動推進	貸出冊数	冊	224,214	222,501	218,855	230,000	240,000	児童・ヤング図書
	団体貸出	冊	12,001	13,072	14,931	16,000	17,000	学校・幼稚園等
	おはなし会	人	539	551	576	590	600	月2回開催
	えほんたいむ	人	1,302	1,081	884	1,100	1,200	月2回開催



【巡回サービス：移動図書館車「ぶっくる号」による貸出】

《課題》

市民図書館へのニーズの多様化等により、個人貸出は減少傾向にある中、高齢化社会を見据えた蔵書構成や、来館が困難な方への巡回サービスの拡充や、図書館サービス網の構築に向けた取組みも必要となってきている。また、館内視聴が減少している視聴覚室を有効利用するよう、具体的方策を打出し実施する必要がある。

《今後の取組み》

図書館サービス網の構築としては、平成24年度末に移動図書館車「ぶっくる号」が稼働した。今後、保育所や学童保育所等への巡回サービス機能を段階的に拡充し、当面は年間約1万冊を搬送したい。また、返却の利便性を計り、ブックポストの増設も行ったことから、ブックポスト3地点からの返却回収も行う。視聴覚室においては、新たに貸出中視聴覚資料の予約受付と、従来図書室で行っていたCDの貸出・返却も行うなど、利用効率を高めつつ、市民持込パソコンの利用席を設けるほか、インターネット環境も取り入れた、多目的室としてレイアウト変更し有効利用できるように取り組みたい。

スポーツ施設維持・運営事業

生涯学習課

総合計画の 位置付け	政 策 名 : 次代を担う「育ち」を見守り、誰もが生涯輝いていられるまち 施 策 名 : 「だれでも・どこでも・いつでも」学び、楽しめる教育環境の充実 主な取組み事項 : スポーツ施設維持・運営事業
目 的	市民に対する健康増進の効果及びサービス面での質を向上させ施設を良好な状態に保つための補修及び維持整備を図る。

主な取組み事項の経緯 (社)香芝市体育協会を指定管理者として社会体育施設の管理運営と市民スポーツ事業の推進を図っている。老朽化により施設等の補修及び改修が多く維持整備工事等が急務であり計画的に整備を進め、安全に施設利用ができるよう努めている。
--

・主 な 事 業

1. 社会体育施設運営事業				
〈目的〉 指定管理者のスポーツ振興事業能力を活用しつつ、地域住民に対する健康増進の効果及びサービス面での質を向上させ、福祉の一層の増進を図る。 〈取組みの状況〉 (社)香芝市体育協会を指定管理者とし社会体育施設の管理運営と市民スポーツ事業の推進を図っている。 〈成果〉 市民サービスの向上、コストの削減を図ることができた。また、ノルデックウォーキング・ドッチボール・カローリングなど参加しやすい教室を開催し、スポーツ事業の拡大を図ることができた。 〈評価〉 指定管理者に社会体育施設の管理運営を委託したことにより、その成果は着実に出てきている。	行政関与の妥当性	B	総合評価 B	
	必 要 性	A		
	有 効 性	B		
	効率・経済性	B		
	23年度決算(千円)			79,655
	24年度決算(千円)			75,867
2. 社会体育施設維持整備事業				
〈目的〉 施設を良好な状態に保つための補修及び維持整備事業 〈取組みの状況〉 指定管理者と協議を図りながら、施設等の補修及び維持整備工事を進めている。 〈成果〉 緊急を要するものより、随時、改修・補修を行った。 〈評価〉 利用者の利便性・安全を考え優先順位をきめたいえ最少限度の改修・補修を行っており、安全に利用できている。今後は年次の整備計画を図っていく必要がある。	行政関与の妥当性	B	総合評価 B	
	必 要 性	A		
	有 効 性	B		
	効率・経済性	B		
	23年度決算(千円)			5,775
	24年度決算(千円)			4,792

・活動指標

事業名	活動名	指標	H22年度 実績	H23年度 実績	H24年度 実績	H25年度 予定	将来目標 (平成27年度)	備考
社会体育施設 運営事業	体育施設 運営	利用者数(人)	260,220	260,992	270,277	241,000	288,000	
		社会体育 施設数	10	10	10	9	—	
		決算(予算) 額(千円)	86,705	79,655	75,867	60,336	—	
社会体育施設 維持整備事業	補修 工事	補修・工事 件数	8	6	6	4	—	
		決算(予算) 額(千円)	19,260	5,775	4,792	1,000	—	H22・H23 きめ細かな臨時交付金事業



【総合体育館】



【健民運動場】



【高塚テニスコート】

《課題》

各施設は、経年劣化により、老朽化が進み、補修や改修が必要となっている箇所が多く、計画的に補修や改修を行っていくことが求められる。

市民ニーズの多様化により、参加しやすい事業・教室の開催が必要である。

《今後の取組み》

施設維持については、利用者の利便性・安全性を考え、優先順位を決めるなど計画的に補修や改修を行い、良好な施設環境の維持に努める。

市民ニーズを反映した生涯スポーツの紹介、指導を行う教室の開催や「見たい・知りたい・やりたい」方々に手軽に参加者できるニュースポーツの紹介をしていきたい。

総合公園の一施設である、総合プールについて、平成24年は開業したが、経年劣化により安全確保が難しいため、抜本的に見直しが必要である。

今後もさらなる市民サービスの向上を図るため、引き続き指定管理・各種団体と連携を密にしていきたいと考えている。

博物館機能の充実

二上山博物館

総合計画の 位置付け	政策名 : みんなで創る豊かで将来性のあるまち 施策名 : 歴史文化財の保存と継承・展開 主な取組み事項 : 博物館機能の充実
目 的	地域の歴史・文化財等の収集・調査・研究を継続的に進め、その成果は普及事業等を通じて積極的に公開を促進する。それにより、地域文化の活用と活性化を図りつつ、次代に引き継ぐための保存の措置を講じる。

主な取組み事項の経緯
地域の魅力ある歴史資源を活用した質の高い生涯学習の機会を提供し、市民の高度化する学習ニーズに対応した一過性にならない継続して学ぶことができる学習環境の充実を図っている。また、平成24年度から市内小・中学校との連携による郷土学習授業(博学連携教育)を積極的に推進し、児童・生徒に地域文化への理解と関心を高めるための多様な学習機会を提供している。

・主 な 事 業

1. 学習環境充実事業				
〈目的〉 博物館の特色を打ち出した事業を展開し、一過性にならない継続して学ぶことができる学習環境の充実を図る。 〈取組みの状況〉 市民に地域の魅力ある歴史資源を活用した質の高い学習機会の充実に努めている。 〈成果〉 石の博物館ならではの特色ある事業を展開し、参加者は年々増加の傾向にある。 〈評価〉 地域の歴史遺産に親しみ、理解を深めるための歴史学習を支援できる博物館に対するニーズは高い。	行政関与の妥当性	A	総合評価 B	
	必 要 性	A		
	有 効 性	B		
	効率・経済性	B		
	23年度決算(千円)			4,381
	24年度決算(千円)			4,232
2. 学校教育連携協力事業				
〈目的〉 児童・生徒に多様な学習機会を提供し、郷土学習への理解と関心を高めるための、博学連携教育を促進する。 〈取組みの状況〉 博学連携教育検討委員会において、授業方法や内容等について継続的に協議を進める。 〈成果〉 博学連携教育は本年度から本格的に実施している。教室での授業とは違った感動や、本物に接することで得られる教育的効果が現れている。 〈評価〉 学校教育と連携して、多様な学習機会を提供することは、郷土学習への理解を深める子どもの育成に貢献できる。	行政関与の妥当性	A	総合評価 A	
	必 要 性	A		
	有 効 性	A		
	効率・経済性	A		
	23年度決算(千円)			—
	24年度決算(千円)			—

・活動指標

事業名	活動名	指標	H22年度 実績	H23年度 実績	H24年度 実績	H25年度 予定	将来目標 (平成27年度)	備考
学習環境充実事業	普及啓発事業	博物館観覧者数(人)	9,322	8,503	9,224	9,500	10,000	
		博物館事業参加者数(人)	7,807	7,867	7,937	8,000	8,500	
		ワークショップ参加者数(人)	2,583	2,361	2,770	2,800	3,000	
協学連携 学校教育連携 事業	博学連携 教育事業	実施校(件)	—	—	2	7	14	
		参加児童・生徒数(人)	—	—	336	800	1,000	



【公開講演会】

《課題》

地域の歴史や文化財に親しみ、その理解を深めるための歴史学習を支援する博物館事業への興味・関心は高い。市民ニーズに応じた事業の拡大、さらなる内容の充実に取組んでいく必要がある。

また、博物館資料の増加に伴う展示・収蔵施設の狭隘、経年劣化による施設設備の改修など、多くの課題が顕在化している。現在、常設展における監視カメラとモニターの整備、二上山Q&Aクイズコーナーの刷新など具体的な検討を進めているところであるが、今後地域の文化財を適正な環境で維持管理し、継続的な観覧・保存ができる全体的な環境整備を進めていく必要がある。

《今後の取組み》

地域の歴史・文化財を活かした様々な学習機会を提供し、市民の年齢層や多様化・高度化する学習ニーズを把握し、それぞれに配慮した事業内容の充実に取組んでいく。そのためには、博物館資料の調査・研究を並行して推進し、その成果は特別展などを通じて公開・活用していきたい。さらに、家族で楽しめるワークショップや博学連携教育における博物館で実施する授業内容の工夫・充実に積極的に取組んでいきたい。

また、施設設備の維持管理については当面する課題の解決に向けた具体的な検討を順次進めていきたい。

尼寺廃寺跡史跡整備の推進

生涯学習課

総合計画の 位置付け	政策名 : みんなで創る豊かで将来性のあるまち 施策名 : 歴史文化財の保存と継承・展開 主な取組み事項 : 尼寺廃寺跡史跡整備の推進
目的	飛鳥時代後半に造営された史跡尼寺廃寺跡を歴史公園として整備することによって、貴重な文化遺産を保護して後世に継承し、市民に憩いの場と地域の文化財に触れ合う場を提供するとともに、広く文化財保護意識の向上を図り、さらに、全国に観光資源として尼寺廃寺跡をアピールしていく。

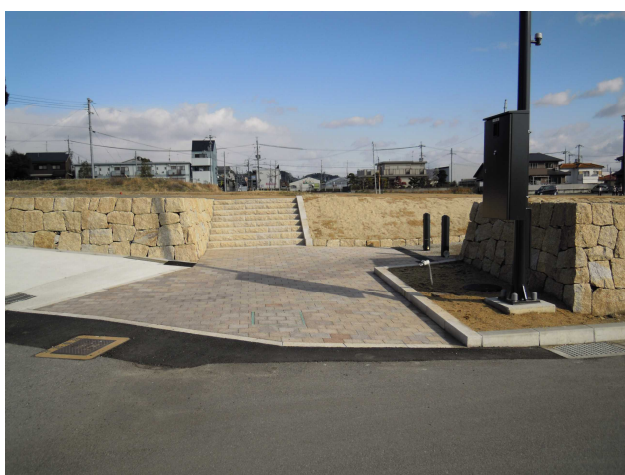
主な取組み事項の経緯
尼寺廃寺跡は平成 14 年 3 月 19 日に国史跡に指定され、整備事業として平成 15 年度から用地買収、平成 19 年度から整備工事を開始している。平成 24 年度には新設市道の供用を開始し、史跡指定地内を南北に通る市道を廃止して指定地全面にわたる給排水設備や電気設備の設置工事を施工した。今後は整備検討委員会で整備後の活用を考えたガイダンス施設の内容を検討するとともに、整備後の適切な管理方法についても議論していく。

・主 な 事 業

1. 尼寺廃寺跡史跡整備推進事業				
〈目的〉 貴重な文化遺産を保護して後世に継承し、市民に憩いの場と地域の文化財に触れ合う場を提供するとともに、広く文化財保護意識の向上と観光資源としても活用を図る。 〈取組みの状況〉 整備検討委員会を開催して具体的な整備方法や整備後の活用等について議論するとともに、整備工事の施工と整備に伴う報告書作成のための委託等を行った。 〈成果〉 平成 24 年度は整備検討委員会を 3 回開催し、平成 25 年度の整備工事の内容を議論して実施設計に反映した。そして、予定していた整備工事を施工し、指定地内を通過していた市道を廃止して園路(遊歩道)を設置した。 〈評価〉 平成 24 年度において指定地内を通過していた市道を廃止し、指定地内の盛土による基盤整備工事が一気に進んだ。また、整備検討委員会で指定地内の整備内容についてはほぼ決まり、目的達成に向け着実に進捗している。	行政関与の妥当性	A	総合評価	
	必要性	A		
	有効性	A	A	
	効率・経済性	B		
	23 年度決算(千円)			141
	24 年度決算(千円)			28, 147

・活動指標

事業名	活動名	指標	H22年度実績	H23年度実績	H24年度実績	H25年度予定	将来目標 (平成27年度)	備考
整備推進事業 尼寺廃寺跡史跡	尼寺廃寺跡整備事業	整備率	76.34%	76.35%	78.38%	85.50%	100%	平成27年度完成を目指して取り組んでいる。
		決算(予算)額(千円)	30,268	141	28,147	98,590	—	



【史跡尼寺廃寺跡現況】



【塔基壇全景(発掘調査時)】

《課題》

平成25年度は塔跡と金堂跡の基壇整備のため、盛土を行い、芝生の植栽や基壇上面の土固化舗装、塔心礎表示写真陶板の設置等を行う予定である。しかし、指定地外で建設を予定しているガイダンス施設については、その活用方法によって内容や規模が決まることから、今後とも継続的に整備検討委員会を開催して議論していく必要がある。

《今後の取組み》

今後も継続して整備工事を進めると同時に、整備検討委員会でガイダンス施設等の詳細な部分や完成後の活用についても議論を進め、整備事業全体がスムーズに進むよう努める。

文化財の保護・管理

生涯学習課

総合計画の 位置付け	政策名 : みんなで創る豊かで将来性のあるまち 施策名 : 歴史文化財の保存と継承・展開 主な取組み事項 : 文化財の保護・管理
目的	文化財を後世に保存・継承するため、文化財保護に関する必要な施策を講じて文化財の保護啓発に努めるとともに市民の文化的向上に資することを目的とする。

主な取組み事項の経緯

平成5年度に文化財保護条例を制定して以降、文化財の指定をはじめ、指定文化財の修理や管理に伴う補助金交付事業、文化財の巡視活動や防火訓練の実施など各種の文化財を保護するための支援策を講じるとともに、二上山博物館と連携して文化財説明板の設置や文化財普及図書の発行、出前講座の実施、文化財や歴史に関する相談業務等を通じて文化財の普及啓発を行っている。

・主 な 事 業

1. 文化財保護啓発事業			
〈目的〉 市内の文化財を広く市民に周知して活用を図り、文化財の保護啓発に努める。 〈取組みの状況〉 文化財の巡視活動や市民参加の防火訓練等を通じて文化財の保護・管理に努めるとともに、文化財や歴史に関する資料の提供や学習相談業務を通じて文化財の普及啓発を図っている。 〈成果〉 市民や関係機関と連携して各種文化財の保護管理が進められており、博物館来館者への文化財や歴史に関する相談業務等を通じて文化財の普及啓発を図ることができた。 〈評価〉 日頃の活動により、文化財の被害は無く、適切に文化財の保護管理が進められた。また、文化財や歴史に関する相談業務等を通じて文化財の普及啓発が図られた。	行政関与の妥当性	A	総合評価 A
	必要性	A	
	有効性	A	
	効率・経済性	B	
	23年度決算(千円)		31
	24年度決算(千円)		31
2. 文化財保護審議会事務局事業			
〈目的〉 文化財を後世に良好な状態で保存・継承するため、文化財の有識者の指導を得ながら必要な施策について調査・審議する。 〈取組みの状況〉 市内に所在する文化財の調査を進め、これまで31件の市指定文化財の指定を図るなど文化財の保存を図ってきた。 〈成果〉 学術的価値を把握するため、各種文化財に関する資料を収集し、順次調査を進めている。 〈評価〉 各種文化財に通じた文化財保護審議会委員の助言と指導により、適切に文化財の保存・管理が進められている。今後は調査の成果を整理し、積極的に活用していく必要がある。	行政関与の妥当性	A	総合評価 A
	必要性	A	
	有効性	A	
	効率・経済性	B	
	23年度決算(千円)		108
	24年度決算(千円)		25

・活動指標

事業名	活動名	指標	H22年度 実績	H23年度 実績	H24年度 実績	H25年度 予定	将来目標 (平成27年度)	備考
文化財保護 啓発事業	文化財 保護啓発 事業	文化財の 巡視回数	12	12	12	12		平成23年度から 出土品の収蔵施 設である文化財 調査室(真美ヶ丘 5丁目4番16号 所在)の維持管理 経費(光熱費等) を埋蔵文化財発 掘調査事務事業 に変更したため、 決算額の変動が ある。
		決算(予算) 額(千円)	119	31	31	30	—	
文化財保護審議会 事務局事業	文化財 保護審議 会事務局 事業	指定件数	31	31	31	31		
		決算(予算) 額(千円)	47	108	25	239	—	



【鹿島神社での防火訓練実施状況】

《課題》

文化財の保護管理を徹底するためには地域住民との協力・連携は不可欠であり、更なる協力体制の強化が望まれる。また、文化財の普及啓発を図るため、これまでの活動で蓄積された郷土の文化財や歴史に関する資料、情報を如何に整理・保存し、活用していくかが大きな課題となっている。

《今後の取組み》

今後も市民や関係機関と連携して文化財の保護管理に努めるとともに、市内の文化財や歴史に関する資料の調査・研究を進め、その成果を博物館の展覧会や歴史講座の開催、日常の学習相談等を通じて普及・啓発を図っていきたい。

※評価・点検の方法

- ① 各事業を担当する教育委員会事務局職員（ワーキンググループ）により事務事業点検をしました。
- ② 教育委員会事務局職員（教育長・教育部長・教育部次長・担当課長）による内部評価をしました。
- ③ 教育委員会において総合的に評価を行いました。
- ④ 知見者から意見をいただきました。

2. 点検・評価シートに関する知見者の意見

今回の施策の点検・評価に関しては、それぞれの施策や取組み事業ごとに、細かく行われている。特に、評価・点検の客観性を保証するため、行政関与の妥当性、必要性、有効性、効率・経済性の観点からなされており、大切なことである。今後は、それぞれの観点における客観性に向け、具体的な評価規準の設定も視野に入れたい。

活動指標には、将来目標が示されており、それに向けて更に事業の拡充を図っていただきたい。

・家庭教育の充実について

P T Aなど、家庭教育充実に携わっている立場からは、教育委員会からの支援や連携があることで、とても進めやすく感じる。現在行われている施策の継続と更なる発展をお願いしたい。

家庭教育学級は、全小・中学校での設置に向けて更に進めていただきたい。

・地域教育力の向上について

放課後子ども教室事業については、参加希望者全員を受け入れることができていない状況にある。募集人員に制限があり、場所等の確保に課題があるようだが、少しでも希望者が参加できるよう検討いただきたい。特に、平成 25 年度からは、「学校・地域パートナーシップ事業」がスタートしているが、この事業との連携を進めていただくよう期待する。

「学校・地域パートナーシップ事業」については、地域の方も、プレートやタスキを着け、地域での子どもや大人の認知度を高めるよう工夫している。

・幼児教育の充実について

外国人講師を招へいし、外国語をとおして学ぶことの楽しさを高める取組みをしていただいているのは、とてもよいことである。子どもたちが、積極的にコミュニケーションを取ることのできる力を高めていく上でも、効果的な取組みであると思う。更なる充実をお願いしたい。

・児童生徒の学力・体力の向上について

国際理解教育推進事業については、平成16年度に県内でも先進的に立ち上げ、成果を上げている。香芝市の教育の特色であり、更に効率や内容の充実をお願いする。

体力向上推進事業については、体力低下が課題となっている現在、更なる充実をお願いしたい。

・安心して学べる教育環境の整備について

いじめや不登校等の問題に対する取組みについても、更に進めていただきたい。平成25年度からは、生徒指導支援室が設置されたので、子どもや保護者、学校への支援をより一層進めていただきたい。

耐震化、食育の充実については、着実に進めていただいております、引き続きの積極的な取組みをお願いしたい。

・信頼される学校づくりについて

部活動について、教員が奉仕的に頑張っている。このことを含め、部活動の意義を、子どもや保護者にも、もっと啓発していただきたい。

また、社会体育との連携についても、検討していただきたい。

教職員資質向上事業については、指定研究や各学校・園での研究への支援等が進められている。学力向上や豊かな心の育成については、更に進めていただきたい。そのためには、各学校・園での研修等の充実が欠かせない。講師を招へいするための予算の増額など、財源の確保に積極的に取り組んでいただきたい。他府県等では、その予算が充実しており、教職員の指導力の向上や学力向上などにも大きくつながっている。

・子どもの居場所づくりについて

青少年野外活動センターについては、様々な状況や参加者のニーズ等を勘案しながら運営が行われており、引き続きの充実した運営をお願いしたい。

- **生涯学習機会の充実について**

市民公開講座、市美術展覧会は、テーマ設定のよさなどによって参加・来場者数が増えている。引き続き、運営の工夫をお願いしたい。

中央公民館活動は、高齢者の方々の利用が増えている。そのニーズへの対応とともに、親子体験教室などの更なる充実など、幅広い年代に対応した運営の工夫を、引き続きお願いしたい。

- **博物館機能の充実について**

市内の小・中学校と連携した博学連携教育が順調に進められている。子どもたちにとって、香芝市に生まれ、育ったことの喜びや誇りを育む上でも、意義ある取り組みである。更なる充実発展をお願いしたい。

- 観点、総合評価の中には、昨年度に比べて向上、改善されているものがある。その向上、改善の要因は財産である。この財産を、更に活かしていただきたい。全体に、個々の施策を工夫しながら進めていただいている。子ども、教職員、地域住民を更に応援していただけるよう、教育委員会の皆さんをお願いしたい。

大変な時代で、思うようにできること、また、できないことも多数あると思うが、この報告書に記載されているように、一生懸命事業をされていることについては感謝を申し上げたい。

- 様々な施策を知り、保護者として、我が子が「香芝の子どもで良かった」と思った。今後も、市民として、我が子自身がこのように思えるように育てていきたいと思う。

知見者名簿

畿央大学教育学部 教授	島 恒生
香芝市社会教育委員会 議長	山下 幸二
香芝市PTA協議会 会長	田中 ひろみ



【知見者と教育委員会事務局職員との懇談会（平成 25 年 8 月 1 日開催）】

3. 資料

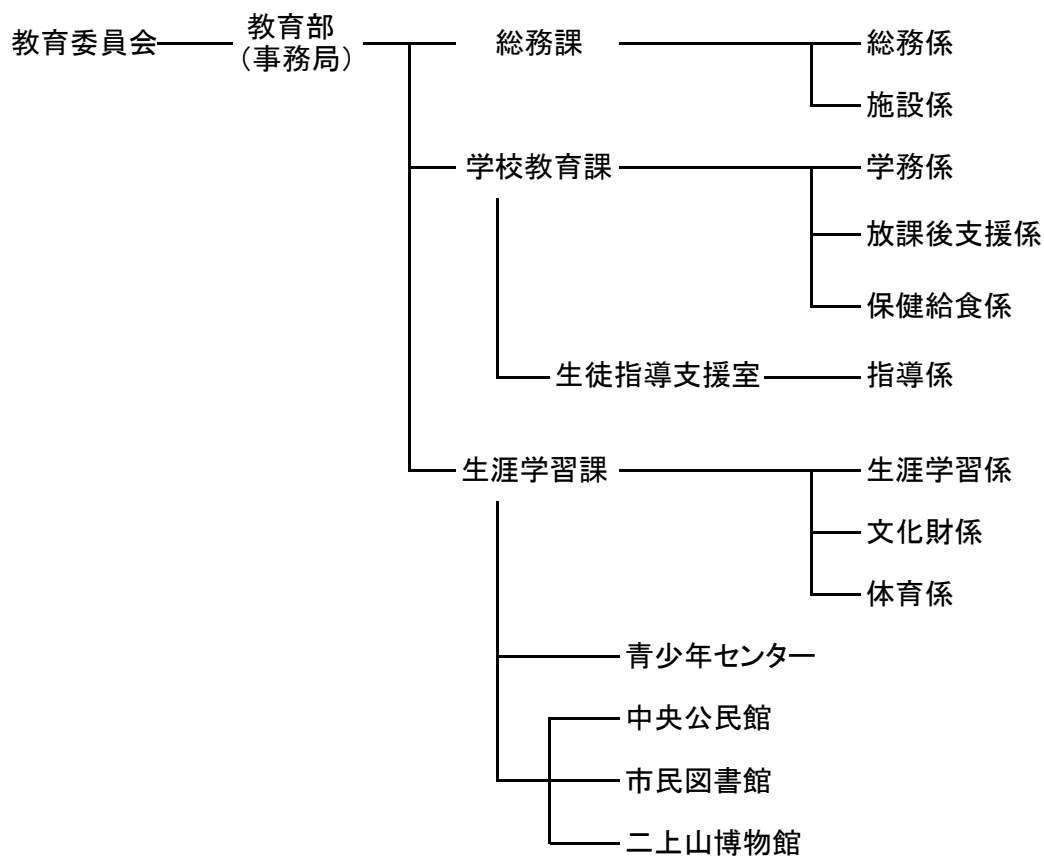
(1) 教育委員会の概要

・教育委員及び教育長

(平成25年4月1日現在)

役職名	名前	任期
委員長	粕田 保	平成21. 10. 1～25. 9. 30
委員長職務代理者	日高 初美	平成24. 10. 12～28. 10. 11
委員	大前 珠己	平成24. 10. 12～28. 10. 11
委員	中木 秀一	平成22. 10. 1～26. 9. 30
教育長	廣瀬 裕司	平成23. 10. 1～27. 9. 30

・教育委員会組織図



(2) 平成24年度 教育委員会活動状況

(平成24年4月～25年3月)

月	日	行 事 名
4	8	小学校入学式
	10	中学校入学式
	11	入園式
	24	教育委員会定例会
	28	公民館開講のつどい
5	6	香芝市選手権大会
	9	県市町村教育委員会連合会会議
	19	香芝市PTA協議会総会
	22	香芝市青少年健全育成協議会理事会
	23	教育委員会定例会
6	1	市町村教育委員長・教育長会
	26	香芝市青少年健全育成協議会総会
	28	教育委員会定例会
7	1	奈良県民体育大会壮行会
	7	香芝市青少年健全育成協議会推進大会
	13	人権教育シンポジウム
	24	教育委員会定例会
8	24	公立学校施設整備期成会定期総会
	27	教育委員会定例会
9	27	教育委員会定例会
	28	小学校運動会
	29	小学校運動会
10	3	中学校体育大会
	6	小学校・幼稚園運動会
	16	学校訪問
	17	学校訪問・近畿市町村教育委員研修大会
	22	学校訪問
	24	教育委員会定例会
	31	学校訪問
11	1	学校訪問
	2	学校訪問
	6	学校訪問
	7	学校訪問
	8	学校訪問
	10	公民館まつり
	19	教育委員会定例会
	24	香芝市美術展覧会表彰式・青少年健全育成市民集会
	29	教育委員会先進地視察
	30	教育委員会先進地視察
12	19	教育委員会定例会
1	14	香芝市成人式
	20	香芝市マラソン大会
	26	香芝市PTA協議会教育講演会並びに教育委員会との懇談会
	31	教育委員会定例会
2	21	教育委員会定例会
	23	教育委員会表彰
3	9	春のつどい
	15	中学校卒業式
	18	卒園式
	18	教育委員会定例会
	19	小学校卒業式

(3) 教育委員会定例会の開催状況について

開催月	日	種別	番号	案件	顛末
4	24	承	1	香芝市学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱に関する専決処分の承認について	原案承認
		承	2	香芝市就学指導委員会委員の解嘱及び委嘱に関する専決処分の承認について	原案承認
		承	3	香芝市教育委員会事務局事務決裁規程の一部を改正することに関する専決処分の承認について	原案承認
		報	4	香芝市就学援助費支給要綱の廃止及び香芝市就学援助実施要綱の制定に関する専決処分の報告について	報告受理
5	23	承	4	香芝市社会教育委員の委嘱に関する専決処分の報告及び承認について	原案承認
		承	5	香芝市公民館運営審議会委員の委嘱に関する専決処分の報告及び承認について	原案承認
		承	6	教育財産の取得に関する専決処分の報告及び承認について	原案承認
		報	5	香芝市就学指導委員会調査員の任命に関する専決処分の報告について	報告受理
6	28	議	10	平成24年度香芝市立五位堂小学校等の学校評議員の委嘱について	原案可決
		承	7	香芝市社会教育委員の解嘱に関する専決処分の報告及び承認について	原案承認
7	24	報	6	香芝市教育委員会が管理する行政文書の開示に関する専決処分の報告について	報告受理
		報	7	香芝市立中学校給食実施検討委員会設置要綱の制定に関する報告について	報告受理
8	27	議	11	平成24年度香芝市の教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について	原案可決
		承	8	香芝市学校歯科医の解嘱に関する専決処分の承認について	原案承認
		諮	4	香芝市立二上小学校増築工事請負契約の締結について	原案承認
		報	8	香芝市いじめ・不登校等対応委員会設置要綱の制定に関する報告について	報告受理
9	27	選	1	香芝市教育委員会委員長の選挙について	指名推選
		指	1	香芝市教育委員会委員長の職務代理者の指定について	指定
		議	12	香芝市教育委員会事務局の教育機関の長の任命について	原案承認
		承	9	香芝市学校歯科医の委嘱に関する専決処分の承認について	原案承認
10	24	議	13	香芝市教育委員会傍聴人規則の一部を改正することについて	原案可決
11	19	諮	5	香芝市体育施設及び有料公園施設の指定管理者の指定について	原案承認
12	19	議	14	香芝市立幼稚園規則の一部を改正することについて	原案可決
1	31	議	1	平成24年度香芝市教育委員会表彰被表彰者の決定について	原案可決
		議	2	香芝市教育委員会事務局組織及び事務分掌規則の一部を改正することについて	原案可決
		議	3	香芝市教育委員会事務局の職員の職の設置に関する規則の一部を改正することについて	原案可決
		議	4	香芝市教育委員会事務局事務決裁規程の一部を改正することについて	原案可決
		諮	1	香芝市附属機関設置条例の制定について	原案承認
2	21	承	1	平成24年度香芝市教育委員会表彰被表彰者の追加決定に関する専決処分の報告及び承認について	原案承認
		報	1	香芝市教育委員会が管理する個人情報の開示に関する専決処分の報告について	報告受理
3	18	議	5	香芝市教育委員会附属機関設置規則の制定について	原案可決
		議	6	平成25年度香芝市学校教育の指導方針の策定について	原案可決

(4)平成25年度重点目標

基本方針（ビジョン）

学校教育においては、時代の変化に即応しながらも基礎・基本を大切にし、知力・体力を備え、人間性豊かで自律した市民として子どもたちが成長することを目指す。また、教職員の研修・研究などをおして指導力の向上に努めるとともに、環境整備に積極的に取り組み、安全で安心な信頼される学校づくりを推進する。さらに、社会教育については、市民誰もが生涯を通じ、あらゆる場で共に学び合い、支え合うことができる生涯学習社会の実現を図る。

重点目標

（優先順位 1） 学校施設等の耐震化の促進

香芝市耐震改修促進計画では、市有の特定建築物については、平成 27 年度までに耐震化率 90%とすることを目標としているが、学校等の施設については、児童生徒たちの生活の場となっていることから、優先的に耐震化を進めることとし、平成 27 年度には耐震化率 100%とすることを目標に施設の耐震化を推進する。

また、近年発生した大規模な地震では、天井材の落下などいわゆる『非構造部材』の被害が発生している。これらの被害は、構造体に被害が軽微な場合も生じる可能性があることから早期に非構造部材の調査を実施する。

（優先順位 2） 特別支援教育体制の整備

特別支援学級に入級する児童生徒や、通常学級に在籍しながら特別な支援が必要と認められる児童生徒の数は毎年増加している。また、発達障害のある児童生徒が起こす生徒指導上の問題も多く起こっている。このようなことから、特別支援教育の充実が不可欠となっている。市内のすべての小・中学校において、特別支援教育支援員を配置し、個に応じた適切な指導及び必要な支援を行うことのできる支援体制が必要である。

通常学級に在籍する児童生徒の中にも、学習障害 (LD)、注意欠陥多動性障害 (ADHD)、高機能自閉症など、さまざまな障害のある児童生徒が多くいる。このような現状の中、教員が障害の特性や対処法などを理解しておくことはきわめて重要である。学習面や生活面でのトラブルを極力避ける為にも、教員一人一人の特別支援教育に対する理解と資質の向上が必要である。

(優先順位 2) 児童・生徒の食育の推進

「食育」は「知育」「体育」「徳育」と並び子どもたちの育成のための重要な要素であることから、給食を柱として様々な食体験ができるような取り組みを進める。また、中学校における完全給食の実施の是非について、平成 24 年度は中学校給食検討委員会を設置し、同委員会より一定の方向性を示す報告書が策定された。平成 25 年度については、その報告書に基づき、実施方式、実施時期、実施スケジュールなど実施計画案を策定する「中学校給食実施計画策定会議」を開催し、具体的な検討を開始する。

(優先順位 2) 就学前教育の充実と幼保一体化への検討

幼児期は、知的・感情的、人間関係等のあらゆる側面において大きく成長する時期であり、生涯にわたる学習の基礎を培う大切な時期であるという考えに基づき、幼稚園・保育所、家庭、地域といった様々な環境において、それぞれの有する教育機能を互いに発揮し、バランスを保ちながら、幼児の自立に向けて、幼児の健やかな成長を支える大切な役割を果たさなければならないことを再認識すべきである。

6 歳を迎えると等しく就学する子どもたちにとって、家庭環境、子どもの育ちに対する地域の理解や支援の有無、まして通っているのが保育所か幼稚園かなどによって、成長するための機会が異なることは望ましいことではない。また、小 1 プロブレムが問題となっている昨今では、幼児期から就学期への連続性の重要性についても十分に留意した取り組みがなされるべきである。

また、児童数の減少が進んでいる地域があることを踏まえ公立幼稚園の再編について検証するにあたり、政府が進める「子ども・子育て関連 3 法」に伴う「認定こども園」の実施について、平成 25 年度においても、本市の現状を分析し、実施の可否、実施までのプロセス等を研究しなければならない。

(優先順位 2) 学校・地域パートナーシップ事業の充実

これまでは学校・地域連携事業として、学校と保護者・地域とが＜連携・協力＞の関係であったが、平成 25 年度より学校・地域パートナーシップ事業として、保護者・地域が学校運営に＜参画＞し、教職員・保護者・地域住民が＜協働＞して、課題解決に取り組むこととなった。それに伴い、各学校に校務分掌として「コミュニティ部」を設置し、保護者・地域とパートナーシップの関係で取り組めるよう、各学校に「学校コミュニティ協議会」を組織する。各中学校区に地域コーディネーターを置き、学校支援についての調査・分析を行い、円滑に活動できるよう援助する。また、中学校区内の小・中学校の学校コミュニティ協議会の代表（教職員及び保護者・地域の代表）と地域コーディネーターからなる、「中学校区コミュニティ協議会」を設け、各中学校区における教育課題の解決にあたっていく。

(優先順位 2) 生涯学習基本計画の検証

平成13年に策定いたしました「生涯学習推進基本計画」が12年目を迎え、近年、少子高齢化、国際化、地球環境問題、地域や家庭の希薄さなどコミュニティのあり方も大きく変化しております。これらに対応するために現状に即した基本計画を改訂する必要がありますので、現在の基本計画の検証を行い、平成26年度には、第2次「生涯学習推進基本計画」の策定に努めたい。

(優先順位 7) 子どもの読書活動推進事業

平成13年にすべての子どもがあらゆる機会と場所で「自主的に読書活動」ができる環境を整備するよう定めた「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定され、香芝市でも推進計画を策定し、展開してきた。その結果、ある程度は子どもたちが本に接する機会が増えてきたものと思われるが、まだ十分とはいえない面がある。

《展望》

子どもたちが、あらゆる場所で「自主的に読書活動」ができるようにするため、関係各機関とより連携を図り、今までの取り組みをより深めていく。また広い年代に合わせた各機関等との連携の方法を考え、進めていく必要があると考える。

(優先順位 7) 博物館事業の活性化

本市の歴史文化発信拠点として、石の博物館ならではの特色を打ち出した事業を展開して活性化を図り、市民の高度化する学習ニーズに対応した一過性にならない継続して学ぶことができる学習環境の充実を図る。また、市内小・中学校との連携による郷土学習授業（博学連携教育）を本格的に実施し、児童・生徒に地域文化への理解と関心を高めるための多様な学習機会を提供する。

(5)

平成25年度 香芝市学校教育の指導方針

創る 学ぶ 育つ

～ 子どもの夢をはぐくむ香芝の教育 ～

香芝市の学校教育は、日本国憲法や教育基本法の精神を踏まえ、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な幼児・児童・生徒の育成に努める。



学校教育の具体目標

- (知) ◎ 自ら学び、自ら考える習慣を確立し、自主的で主体的な学習態度を培い、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる。
- (徳) ◎ 個人の尊厳を重んじ、真理と正義とを希求し、公共の精神を尊び、自と他の存在を認め合う心を育てる。
- (体) ◎ 規律ある生活習慣を身に付けるとともに、体力に応じた活動を奨励し、健康でたくましい心身を育てる。
- (情操) ◎ 生命を大切にする心、自然を愛する心、美しいものや崇高なものに感動する心を育てる。
- (人権) ◎ 人権や差別に対する正しい見方・考え方を培い、差別に立ち向かう意欲と実践力を育てる。
- (勤労) ◎ 勤労体験活動を通して、働くことの意義と喜びを感得し、正しい勤労観を培うとともに、社会でよりよく生きていくための力を育てる。
- (連帯) ◎ まわりとの人間関係のなかで、自他の敬愛の大切さと相互依存の重要性とを学び、社会連帯の意識や福祉・ボランティア精神を養うとともに、社会参加を通して豊かな心や感謝の心を育てる。
- (国際) ◎ 自国や郷土の自然と文化と歴史についての理解を深めるとともに、世界の国々の文化と民族の歴史などについての認識を高め、互いに尊重し合う態度を培う。
- (環境) ◎ 自然体験や社会体験等を通して、環境に対する人間の責任と役割を理解し、保全・改善・創出に主体的に働きかける態度を培う。

香芝市教育委員会

校種別指導の重点



《確かな学力の育成》

－基礎・基本の充実を図り、それらを活用する力を育む－

- 幼稚園**
- ・調べる、比べる、尋ねるなどの様々な手法を組み合わせ、楽しみながら課題を見いだし解決する活動を工夫する。
 - ・感じたことや経験したことを自分なりの言葉で表現する力を育成する。
- 小学校**
- ・個に応じた指導の充実とともに、基礎的・基本的な知識及び技能を定着させるため、繰り返し学習などの学習活動を工夫する。
 - ・各教科等において、記録、要約、説明、話し合いなどの言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育成する。
- 中学校**
- ・個に応じた指導の充実とともに、小学校の学習内容を考慮し、基礎的・基本的な知識及び技能を定着させるため、反復学習などの学習活動を工夫する。
 - ・各教科等において、記録、要約、批評、論述などの言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育成する。



《豊かな人間性の育成》

－正しく判断し、行動する力を育む－

- 幼稚園**
- ・身近な人々との関わりを深め、愛情や信頼感、他の人を思いやる心を育む。
 - ・自然や身近な動植物に親しませ、生命を大切にする心を育む。
 - ・協同して遊ぶことを通して、よいことや悪いことに気付かせ、ルールを守ろうとする態度を養う。
- 小学校**
- ・自分や他の人を理解し、生命を大切にする心や正義感、責任感を育む。
 - ・様々な体験を通して、豊かな感性や情操を培い、基本的な生活習慣や社会生活上のルールを身に付けさせる。
- 中学校**
- ・自分や他の人への理解を深め、生命を大切にする心、人権を尊重する心や自律心、責任感、正義感を育む。
 - ・職場体験活動やボランティア活動などを通して、社会生活上のルールやマナーを身に付けさせ、社会参画しようとする態度を養う。

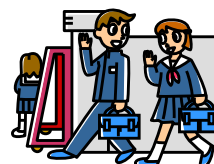
《たくましい心身の育成》

－体力向上に向け、進んで運動に取り組む力を育む－

- 幼稚園**
- ・いろいろな遊びの中で十分に体を動かし、伸び伸びと行動することを通して、充実感や満足感を味わわせ、健康な体づくりの基礎を培う。
- 小学校**
- ・運動遊びや一校一運動などを行うことにより、進んで運動を楽しむもうとする態度やいろいろな運動ができる力を育てる。
- 中学校**
- ・運動部活動など、様々な運動の体験を通して、体力向上を図るとともに意欲的に運動に取り組む態度や、生涯にわたって運動に親しむ資質を育てる。



魅力と活力ある園・学校づくりのために



○ 特色ある教育活動の展開

- ◇ **特色ある教育課程の編成** ・子どもたちが主体的・創造的に活動できるような教育課程を編成する。
- ◇ **指導方法の工夫改善** ・一人一人の特性等に応じた指導や少人数指導、外部人材の活用など、指導の方法や体制の工夫改善を図る。
- ◇ **学校評価の活用** ・適切な評価項目と数値目標を定め、自己評価、学校関係者評価を実施し、それらの結果を活用して学校改善を図る。

○ 教員の資質の向上

- ◇ **自己の意識の向上** ・豊かな人権感覚・実践的指導力を身に付ける研修を積み、自己申告評価制度を活用して、さらに自己の意識改革を図る。
- ◇ **指導力の向上** ・授業公開、授業互観、研究授業等を積極的に行い、指導力の向上に努める。
- ◇ **園・学校の組織の強化** ・園・校長を中心とした組織づくりを強化し、学校評価による成果や課題を共有し、今後に向けた方策に取り組む。

○ 家庭・地域との連携・協力

- ◇ **積極的な情報発信** ・地域の人々とも積極的に挨拶し、教育活動の状況や学校評価の結果などについて、積極的な情報の発信に努める。
- ◇ **学校評議員制度の活用** ・学校評議員に学校運営の状況を十分説明し、保護者や地域住民等の意向を反映した学校づくりを進める。
- ◇ **地域と共にある学校づくりの推進** ・保護者や地域住民が学校運営に参画し、学校と協働して子どもの課題解決を図る学校と地域パートナーシップを推進する。
- ◇ **郷土愛の育成** ・博物館などと連携し、香芝市の自然や歴史や文化を学ばせ、郷土への愛着と誇りを持たせる。

今日的な課題への対応

- ◎ 心通い合わせる生徒指導
- ◎ 実践的な安全・防災教育
- ◎ 個々を伸ばす特別支援教育
- ◎ 生活に根ざした環境教育
- ◎ 規範意識を培う道德教育
- ◎ 社会に生きるキャリア教育
- ◎ 家庭・地域と連携した食育
- ◎ 豊かな感性を育てる読書活動

いじめ撲滅宣言のまち

社会全体で いじめを しない させない 見逃さない

具体的な実践課題

○ 創意工夫した授業(保育)の実践と授業力の向上

- 「教師は授業で勝負する」、「授業は教師の生命線である」という意識を持って、各園・学校においては国・県・市の指定研究を進んで受けるとともに、授業公開、授業互観、研究授業等を積極的に行い、授業改善と授業力の向上を図る。

○ 言語活動・基礎基本の充実

読み・書き・計算など、基礎基本の定着に取り組むとともに、言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力の育成に取り組む。

学習に対する姿勢（例えば、鉛筆の持ち方、椅子に座る姿勢等）・学ぶ意欲を大切に
した指導に取り組む。

○ 園・学校内外の生徒指導の充実、安全確保の推進

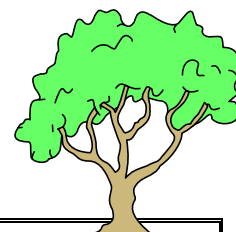
園・学校内において、安心な学校生活が送れるようにいじめ早期発見・早期対応の強化を図る生徒指導の充実に努める。また、実践的な防災教育や防犯教室等の実施に努め、園・学校外においては、通学路等における「子ども見守り活動」などの安全指導の推進に努める。

○ 学校評価の実施

園・学校の実態に応じた適切な評価項目と数値目標を定め、保護者や児童・生徒アンケートを含めた自己評価を行い、学校関係者評価委員会（学校評議員・PTA役員等で構成）による学校関係者評価を実施し、それらの結果を積極的に情報発信したり、活用したりして学校改善を図る。

○ 校種間の連携

中学校区ごとの連携体制の確立に努め、幼保・小間や小・中間の連携を密にして、それぞれの教育課題を見通した系統的な指導や学習の推進を図る。



香芝市立学校教員信条

1. 幼児・児童・生徒や地域社会から信頼され敬愛される指導者になる。
2. 学校教育の各領域にわたって、調和のある指導に情熱をかたむける。
3. 幼児・児童・生徒の伸びゆく生命・人権を尊重し、健康と安全に万全を期す。
4. つねに教育の専門職であることを自覚し、教養を高めるとともに、一層指導力の向上に努める。
5. 幼児・児童・生徒の指導を一層充実するため、家庭・地域社会との連携を積極的にすすめる。

毎月25日は

ニコニコあいさつの日 ～はじめよう、あいさつから～

香芝市の将来像である「笑顔と元気！！ 住むなら かしば」を受け、笑顔で元気よくあいさつを交わすことで、人と人のつながりを深め、よりよい地域社会づくりを進めていきます。

市内の幼稚園・小学校・中学校において、豊かな心や規範意識・社会性を育むためにも、基本的な生活習慣である「あいさつ」に重点を置き、あいさつの励行に取り組んでいきます。園・学校はもちろん、家庭や地域においても、笑顔で元気よくあいさつをすることは、家庭や地域の連帯感が高まり、また、子どもたちが健やかに育ち、安全で安心な住みよい社会を築くためにも、とても重要なことです。

- ◎ 園・学校でのあいさつから
- ◎ 家庭でのあいさつから
- ◎ 地域でもあいさつを



ニコ（25）ニコにちなんで、毎月25日を「ニコニコあいさつの日」とし、あいさつについて考え、その意識を高めていくため、市内の園・学校において、「あいさつ」運動を進めていきます。

園・学校においては、25日が休業日のときは、その前の日とします。

さわやかなあいさつが、市内各地で交わされる、

そんな素敵な街にしていくために、みんなで、

「あいさつの輪」を広げていきましょう！

香芝市教育委員会

(6) 児童・生徒・園児数一覧

(平成25年5月1日現在)

小学校	21年		22年		23年		24年		25年		前年比	
	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数	クラス数	児童数
五位堂	17	520	16	513	16	507	17	508	17	483	0	-25
下田	23	748	24	762	24	745	24	760	24	770	0	10
二上	19	614	20	673	22	739	23	783	26	811	3	28
志都美	11	317	12	350	12	375	12	360	12	352	0	-8
関屋	12	323	12	340	12	356	12	361	12	377	0	16
三和	12	353	12	345	12	361	12	364	12	381	0	17
鎌田	9	229	8	205	9	194	8	208	8	201	0	-7
真美ヶ丘東	20	664	19	626	19	630	18	608	18	613	0	5
真美ヶ丘西	12	350	12	356	12	353	12	351	12	340	0	-11
旭ヶ丘	37	1,357	38	1,355	39	1,376	37	1,303	37	1,253	0	-50
計	172	5,475	173	5,525	177	5,636	175	5,606	178	5,581	3	-25

中学校	21年		22年		23年		24年		25年		前年比	
	クラス数	生徒数	クラス数	生徒数	クラス数	生徒数	クラス数	生徒数	クラス数	生徒数	クラス数	生徒数
香芝	18	681	17	645	17	656	16	639	17	657	1	18
香芝西	9	342	9	345	12	369	12	419	12	429	0	10
香芝東	17	633	17	643	18	680	18	709	20	723	2	14
香芝北	16	588	18	661	18	676	20	760	20	781	0	21
計	60	2,244	61	2,294	65	2,381	66	2,527	69	2,590	3	63

幼稚園	21年		22年		23年		24年		25年		前年比	
	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数
五位堂	4	98	4	86	4	74	3	80	4	79	1	-1
下田	4	110	5	131	5	140	4	131	4	122	0	-9
二上	4	113	4	118	4	130	4	116	4	113	0	-3
志都美	4	81	3	59	2	49	2	45	2	40	0	-5
関屋	3	56	3	57	2	52	2	59	2	56	0	-3
三和	2	54	3	67	3	70	2	60	3	64	1	4
鎌田	2	21	2	30	2	33	2	31	2	33	0	2
真美ヶ丘東	6	154	6	151	5	129	4	100	5	131	1	31
旭ヶ丘	8	230	8	219	7	185	6	155	5	127	-1	-28
計	37	917	38	918	34	862	29	777	31	765	2	-12